

令和3年度

教育委員会点検・評価報告書

令和4年10月

登別市教育委員会

目 次

I 教育委員会の点検・評価について	2
II 評価の手法	2
1 点検・評価の対象	
2 実施の流れ	
III 評価結果	3
1 教育委員会の活動状況の概要報告	3
2 重点施策の評価	8
3 重点施策の評定結果	59
IV 点検・評価に関する学識経験者の意見等	62
V 評価のまとめ	64
VI 参考資料	
1 令和3年度教育行政執行方針	
2 教育に関する具体的な計画とその点検・評価の流れ	

I 教育委員会の点検・評価について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の改定により、毎年教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされ、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関する学識経験を有する方の知見の活用を図ることとされた。

登別市教育委員会では、効率的な教育行政の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たしていくため、地教行法に基づき、令和3年度の教育委員会の活動状況の報告と基本方針及び重点項目の主な施策（19項目）について点検・評価を行い、教育に関する学識経験を有する方々の意見を付して「教育委員会点検・評価報告書」としてまとめた。

本報告書を公表することにより、市民の皆様には教育に関する事務の管理及び評価の状況について説明するとともに、今後の施策・事業の展開に活用し、より一層効果的な教育行政の推進を図ることとする。

II 評価の手法

1 点検・評価の対象

登別市教育委員会の点検・評価は、教育委員会の活動状況の他、令和3年度の教育行政執行方針に位置づけられた施策・事業を点検・評価の対象として実施した。

2 実施の流れ

(1) 教育委員会の活動状況の概要報告

教育委員会の1年間の様々な活動について

(2) 令和3年度の重点施策の管理及び執行状況の評価

・教育行政執行方針に位置づけられている重点施策を評価した。

点 検 内 容	当該年度の教育行政執行方針の重点内容
取 組 状 況	当該年度内に実施した取組の概要
評 価	取組の実施状況に対する評価
今後の方向性	今後の取組を進める上での課題や対応の方向

(3) 教育行政執行方針における重点施策の評定結果

・4段階（A～D）で、評価を実施した。

A：達成しているもの

B：おおむね達成しているもの

C：達成見込みであるが一部課題があるもの

D：達成に向け困難な課題があるもの

(4) 点検・評価に関する学識経験者の意見等

・点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する行政外部の方からの意見、助言をいただいた（令和4年9月29日）。

氏 名	所 属 等
引 地 政 征 氏	日本工学院北海道専門学校 副校長
大屋敷 俊 裕 氏	登別市退職校長会 会長
吉 野 幸 広 氏	前登別市郷土資料館 館長

Ⅲ 評価結果

1 教育委員会の活動状況の概要報告

(1) 教育委員会の活動状況

教育委員会の会議については、毎月一回、開催した。令和3年度は、必要に応じて開催する臨時会議を開催しなかった。

会議においては、登別市教育委員会教育長に対する事務委任規則に従って、教育長委任事務以外の事務における議案の提案理由や説明が行われた後、各委員からの質問・意見などの審議を経て、いずれも可決、了承された。また、事務局からの情報提供や各種課題、事業の進捗状況、その他事項の報告について、意見交換を行った。

(2) 令和3年度 登別市教育委員会「定例会議」の概要

第1回 会議	4/22 16:30	<p>報告第1号 教育委員会事務局職員の人事異動に係る臨時代理について</p> <p>議案第1号 登別市スポーツ推進委員の委嘱について</p> <p>情報提供</p> <p>(1) 令和3年度 中1ギャップ問題未然防止事業について</p> <p>(2) 令和3年度 学校施設等の工事計画について</p> <p>(3) 令和3年4月10日時点登別市立学校児童生徒数・学級数調書について</p> <p>(4) 令和3年度 登別市立学校主要行事等予定一覧について</p> <p>(5) 令和3年度 登別市情報教育推進協議会について</p> <p>意見交換から(委員の意見・感想)</p> <p>○エピペン処方箋は処方箋なので、主治医の処方がない限り手に入らない。主治医より処方されたものを、児童生徒が学校などに持参することができる。学校でアレルギーの発症が出た場合は、緊急薬なので先生を含めて使用が可能である。緊急薬は1回限りという前提で使用するので、医療行為にはあたらないとのこと。</p>
第2回 会議	5/27 16:30	<p>報告第2号 教育委員会事務局職員の併任に係る臨時代理について</p> <p>報告第3号 教育委員会事務局職員の休職に係る臨時代理について</p> <p>報告第4号 市議会臨時会提出議案に関する意見に係る臨時代理について</p> <p>議案第2号 登別市スポーツ推進委員の委嘱について</p> <p>議案第3号 登別市社会教育委員の委嘱について</p> <p>議案第4号 登別市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について</p> <p>議案第5号 登別市立中学校における重大事態の再発防止策について</p> <p>議案第6号 登別市重大事案対策委員会委員の委嘱について</p> <p>情報提供</p> <p>(1) 第6次登別市社会教育中期計画(案)の策定に係る意見公募の実施について</p> <p>(2) のぼりべつ ICT 情報交流について</p> <p>(3) 令和2年度 巡回パトロール活動及び街頭指導状況について</p> <p>(4) 令和2年度 不審者等出没状況調書について</p> <p>(5) 西いぶり定住自立圏文化事業の開催について</p> <p>意見交換から(委員の意見・感想)</p> <p>○不審者について、被害児童生徒というのがあるが、学年が入っている部分と入っていない部分の違いは、本人や親の意向か。</p> <p>(事務局)当初は学年を記載していたが、保護者から学年を入れると個人が特定されるので、年度途中から学年を入れないようにした。</p>

第3回 会議	7/1 16:30	<p>報告第5号 教育委員会事務局職員の休職に係る臨時代理について</p> <p>報告第6号 市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について</p> <p>報告第7号 市議会定例会追加提出議案に関する意見に係る臨時代理について</p> <p>議案第5号 登別市立中学校における重大事態の再発防止策について（継続審議）</p> <p>意見交換から(委員の意見・感想)</p> <p>○「登別市の教育の推進に関する検討会議」はどのような組織で、どのような方が参加するのか。</p> <p>(事務局) 社会教育委員の会や商工会議所、民生児童委員、PTA 联合会、校長会、連合町内会、地域学校協働本部、子供会育成連絡協議会から参加していただき、まちづくりを含めて広く意見をいただく組織となっている。設置要綱があり、学校再編など大きなテーマがある時に委員を委嘱している。</p>
第4回 会議	7/27 16:30	<p>報告第8号 令和3年第2回登別市議会定例会一般質問について</p> <p>議案第7号 令和2年度教育行政事務の管理執行状況の点検・評価に係る学識経験者の活用及び選任について</p> <p>議案第8号 第6次登別市社会教育中期計画の策定について</p> <p>議案第9号 登別市文化財審議会委員の委嘱について</p> <p>情報提供</p> <p>(1) 携帯電話やスマートフォン等についてのアンケート結果について</p> <p>(2) 令和3年度新規来登外国語指導助手について</p> <p>(3) 登別市学校教育情報化推進計画について</p> <p>(4) 情報モラル教育リーフレットについて</p> <p>(5) 登別市学力向上プランについて</p> <p>(6) 「登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針 ～将来における小中学校のランドデザイン～」の策定について</p> <p>(7) 「勾玉クッキー」の贈呈式について</p> <p>(8) 図書館の備品の充実について</p> <p>意見交換から(委員の意見・感想)</p> <p>○学力向上プランの内容は素晴らしいと思う。先生方が日々、これを振り返り参考にすることは良いと思った。</p>
第5回 会議	8/26 16:30	<p>報告第9号 教育委員会事務局職員の休職に係る臨時代理について</p> <p>議案第10号 登別市教育委員会事務局組織規則の一部改正について</p> <p>情報提供</p> <p>(1) 成年年齢引き下げ後の登別市成人祭の対象年齢について</p> <p>(2) 市民マイプラン講座実施事業要綱一部改正について</p> <p>(3) 緊急事態宣言を踏まえた教育活動について</p> <p>意見交換から(委員の意見・感想)</p> <p>○感染者が出た場合の取り扱いについては、一定の方向性を出しているのか。</p> <p>(事務局) 市教委で対応マニュアルを作成し、各学校に通知している。臨時休業・学級閉鎖等の判断は、感染拡大の可能性を考慮し、保健所と相談しながら行っていたが、現在は学校や市教委で迅速かつ臨機応変に判断するようになっている。</p>
第6回 会議	9/30 16:30	<p>報告第10号 令和3年第3回登別市議会定例会一般質問について</p> <p>報告第11号 登別市教育委員会委員の任命について</p> <p>報告第12号 登別市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について</p>

		<p>議案第11号 令和3年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について</p> <p>議案第12号 文書管理システムの導入に伴う関係規則の整備に関する規則の制定について</p> <p>議案第13号 登別市教育委員会事務局処務規程の一部を改正する規程について</p> <p>情報提供</p> <p>(1) 鬼っ子フォーラムについて</p> <p>(2) 子育てコラム「手をつなぐ親と子」について</p> <p>(3) 令和3年度「ふれあいデイ（土曜授業地域公開）」の中止について</p> <p>(4) 令和3年度全国学力・学習状況調査～登別市の調査結果～について</p> <p>(5) 公民館及び老人憩の家等のコミュニティ施設への再編に伴う公民館の廃止について</p> <p>(6) 富岸青少年会館廃止方針（案）に係る意見公募（パブリックコメント）の実施について</p> <p>(7) 市役所本庁舎の建設場所について</p> <p>(8) 小中学校の適正配置について</p> <p>(9) 緊急事態宣言解除後の教育活動について</p> <p>意見交換から(委員の意見・感想)</p> <p>○各学校の先生方も家庭学習や勉強の仕方を工夫していて、子どもたちも着実に力をつけてきているのではないかと感じる。このまま継続していただきたい。</p> <p>○現在は新型コロナウイルス感染症の関係で参加できないことも多いと思うが、地域行事への参加を促すような取組をお願いしたい。</p> <p>○ワクチン接種時は出席停止になるということだが、2回目接種後、体調不良を訴えた場合の対応はどうなっているのか。</p> <p>(事務局) ワクチン接種による副反応か否かに関わらず、接種後、児童生徒に発熱等の風邪症状がある場合は、出席停止とすることができるという通知を出している。</p>
<p>第7回 会議</p>	<p>10/28 16:30</p>	<p>報告第13号 教育委員会事務局職員の復職発令に係る臨時代理について</p> <p>議案第14号 令和2年度教育行政執行事務の管理執行状況の点検・評価報告の作成について</p> <p>情報提供</p> <p>(1) 新規ALTの概要について</p> <p>(2) 鬼っ子フォーラムについて</p> <p>意見交換から(委員の意見・感想)</p> <p>○コロナ禍で学校への訪問がなかなかできない状況にある。例えば、オンラインを活用しているところに繋げて意見交換するというのも、今後検討しても良い。</p> <p>○幼稚園には至る所に本を置き、本にたくさん触れ、自分で読めるようにしている。勉強してから遊びに行くなど、より良い習慣をつけて小学校にあげさせたい。</p> <p>○土曜授業が始まった時の趣旨は、学力をあげるためのものではない、教科でなく、地域の人が入ってくるような形を期待していた。土曜授業を1時間などで区切らずもっと自由な形、講師を招く事業など、もっと様々な取組を取り入れてほしい。</p> <p>○点検評価は自己評価なので、コロナの影響を受けたから評価を下げるというのは、何となく腑に落ちない気がする。</p> <p>(事務局) どんな環境の変化にも対応していかなければならないという一面もあるので、内容によっては、厳しく評価したもののあることをご理解いただきたい。</p>

第8回 会議	11/25 16:30	<p>議案第15号 登別市立学校学校医等表彰について</p> <p>議案第16号 登別市公民館の廃止について</p> <p>議案第17号 登別市営陸上競技場の廃止について</p> <p>議案第18号 富岸青少年会館の廃止について</p> <p>情報提供</p> <p>(1) 文化芸術による子供育成総合事業について</p> <p>○中学校公開研の授業を初めてオンラインで見せていただいた。しかし、定点カメラからは先生の声ははっきり聞こえたものの、別の角度からは、ほとんど声が聞こえなかった。是非、授業をした先生が自分の授業を見て、今後の参考にしてほしい。</p>
第9回 会議	12/23 16:30	<p>報告第14号 令和3年第4回登別市議会定例会一般質問について</p> <p>報告第15号 登別市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について</p> <p>議案第19号 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について</p> <p>議案第20号 社会教育施設の廃止に伴う関係規則の整備に関する規則の制定について</p> <p>議案第21号 登別市教育委員会事務局庶務規定の一部を改正する規定の制定について</p> <p>情報提供</p> <p>(1) 令和4年度 教育行政執行方針(案)の概要について</p> <p>(2) 新規ALTの概要について</p> <p>(3) 登別市成人祭の概要について</p>
第10回 会議	1/27 16:30	<p>議案第22号 令和4年度 登別市教育行政執行方針について</p> <p>情報提供</p> <p>(1) 幌別東小学校の統合に関する方針(案)の策定及び意見公募(パブリックコメント)の実施について</p> <p>(2) 登別市教育施設等個別施設計画(案)に係る意見公募(パブリックコメント)の実施について</p> <p>(3) 公の施設に係る指定管理者の指定について</p> <p>意見交換から(委員の意見・感想)</p> <p>○統合にはいろいろな課題があり、特に児童館については、保護者がとても心配している。できるだけ考慮していただき、後々不安がないようにしてほしい。</p>
第11回 会議	2/24 16:30	<p>報告第16号 登別市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について</p> <p>情報提供</p> <p>(1) 令和4年度教育行政執行方針について</p> <p>(2) 市内小中学校の令和3年度卒業式及び令和4年度入学式の日程について</p> <p>(3) 令和3年度登別市全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について</p> <p>(4) 北海道登別明日中等教育学校 市内小学校受検状況について</p> <p>(5) 市内小中学校における新型コロナウイルス感染症の対応について</p> <p>意見交換から(委員の意見・感想)</p> <p>○2年間、コロナ禍で十分な体育活動ができない、校外で遊ぶこともできない状態が続いていると、体力調査の結果にも結構影響があると思うが、関連性はあるか。(事務局) 因果関係ははっきりしないが、肥満傾向がある児童生徒の増加など、もしかしたら関連があるかもしれない。</p>

<p>第12回 会議</p>	<p>3/24 15:00</p>	<p>報告第17号 令和4年第1回登別市議会定例会一般質問について 報告第18号 市議会定例会追加提出議案に関する意見に係る臨時代理について 報告第19号 教職員人事の内申に係る臨時代理について 報告第20号 教育委員会事務局職員の人事異動に係る臨時代理について 議案第23号 幌別東小学校の統合に関する方針について 議案第24号 登別市児童生徒就学援助規則の一部を改正する規則について 議案第25号 登別市立学校管理規則の一部を改正する規則について 議案第26号 登別市指定文化財の指定について</p> <p>情報提供</p> <p>(1) 登別市立小中学校「土曜授業」令和3年度実績・令和4年度計画について (2) 令和3年度 コミュニティスクール（学校運営協議会）の実施状況について (3) 郷土資料館特別展について (4) 令和3年度図書館要覧について</p> <p>意見交換から(委員の意見・感想)</p> <p>○管理職の異動時期にあたるので、コミュニティ・スクールの経験がない地域から異動してくる管理職に勉強していただき、過去の活動も併せて研究する必要がある。コミュニティ・スクールは進展しそうで現状維持となっているので、本市が先進的に進めてきた経緯を酌んでもらうため、是非、周知徹底をお願いしたい。</p> <p>○学校運営協議会のメンバーが、固定化されている気がする。頼みやすいということもあるが、固定化すればマンネリ化に繋がる。定期的に委員の入れ替えを進めて新しい風を入れた方が良いと思う。</p> <p>○大雪が連続して降った時、6年生が最初に下校してきた。聞くと「6年生が先に下校し、低学年のために道をつけてあげる」と言う。学校のアイデアが光る、すばらしい対応と感じた。</p>
--------------------	-----------------------	---

(3) 調査活動の実施状況

教育委員会委員による小中学校の教育活動の視察や研修活動の概要

①公開研究会等の視察

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、実施なし。

②教育ふれあいウィーク

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、実施なし。

③各種会議・研修会の参加

北海道都市教育長会春季定期総会（網走市）書面開催

秋季定期総会（名寄市）書面開催

全国都市教育長協議会（山口県山口市）延期

胆振管内教育長会議 4/9（オンライン開催）

北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会（旭川市）書面開催

胆振管内教育委員会委員研修会 中止

④入学式出席

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、参加を見合わせた。

⑤運動会参観

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、参加を見合わせた。

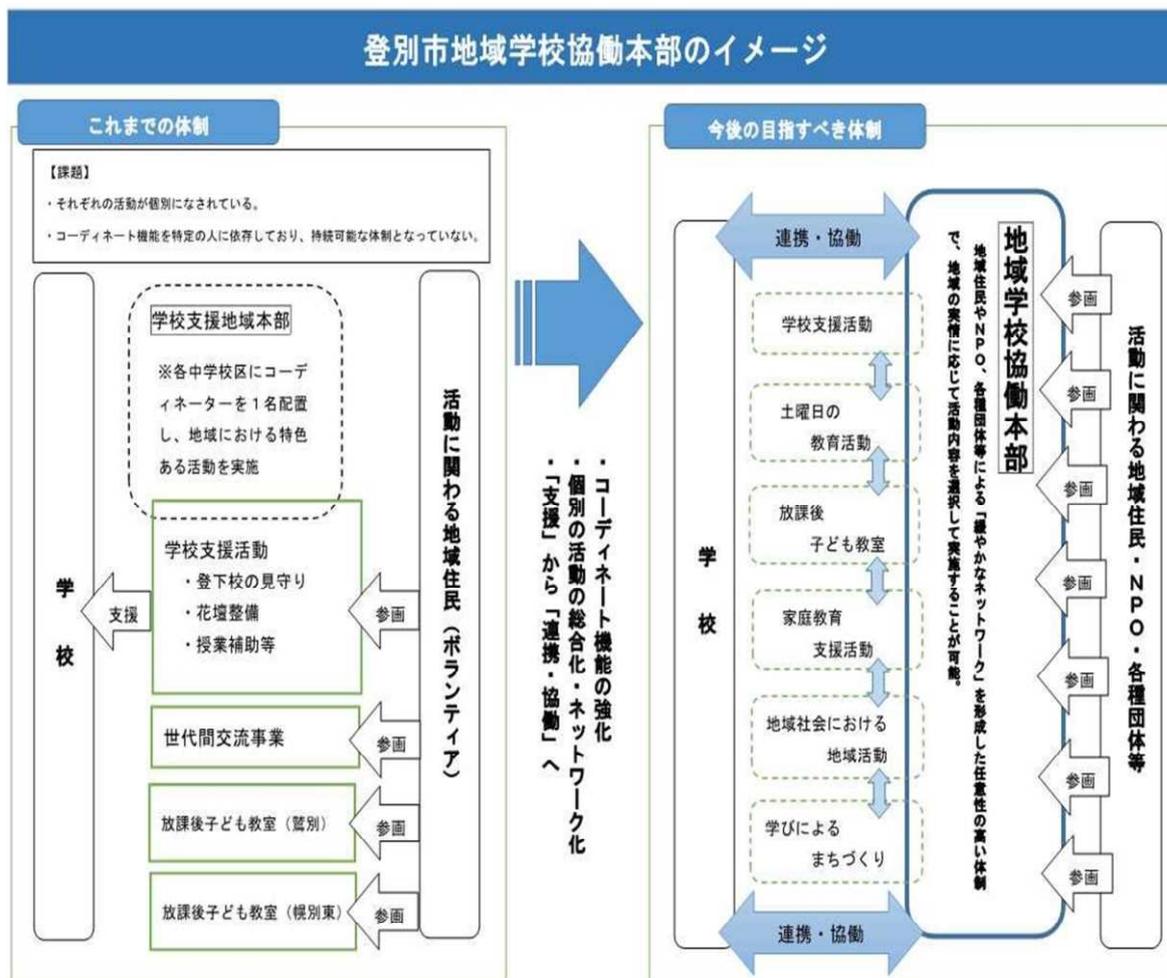
⑥卒業証書授与式出席

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、参加を見合わせた。

2 重点施策の評価

項目	1 地域とともにある学校づくり
点検内容	本市においては、コミュニティ・スクールと地域学校協働本部を一体的に推進し、学校と地域が連携・協働して、将来を担う子どもたちの育成に努めてきた。 今後においても、更なるコーディネート機能の充実を図るとともに、学校を核とした多様な地域学校協働活動が展開されるよう努める。

取組状況



○学校コーディネーターの配置

【推進計画】令和元年度末までに5名 令和2年度末までに3名 令和3年度末までに5名（計13名）

→ 地域の実情に応じて段階的に整備し、西陵中・幌別中・幌別小・富岸小は配置済みとなっている。

○学校運営協議会の話し合いの内容

	月	日	主な議題（学校経営方針以外）	次年度の方向性
幌別小	7	1	いじめアンケート結果 140周年記念の取組 登下校時の安全確保	学校統合委員会からの情報提供を受け、熟議を進める
	11	6	全国学力・学習状況調査結果分析 いじめ防止の取組 学校評価	
	3	7	学校評価集計結果 学校関係者評価 幌別東小との統合	

登別小	7	12	コロナ対応 働き方改革 開校130年事業 いじめ防止基本方針	幼保小中連携を一層充実させ、家庭と地域と一体となり取組を推進する
	第2回		コロナ対応 学力向上プラン 意見交流 中止	
	第3回		【幼小中合同】睡眠時間等から見る学習・生活習慣上の実態と課題 中止	
	2月		学校評価 学校関係者評価 書面	
若草小	4	22	各種学校行事、地域交流祭り等の実施予定と今後の展望	感染症対策を踏まえた、地域交流祭りの改善充実に努め、地域の活性化を目指す
	7	15	1学期の教育活動 今後の予定 書面	
	8	19	鷺中校区小中一貫教育 学校適正配置の説明(市教委) 50周年記念事業	
	12	17	2学期の経営の反省 3学期の経営の重点 校区内通学路の安全確保	
	3	10	学校評価結果 今年度の反省 次年度の教育活動 書面	
鷺別小	7	15	新型コロナ感染防止対策 一人一台端末の活用	地域と家庭、学校が一体となった教育活動を進める
	12	16	学校運営の進捗状況 学校評価の実施	
	第3回		学校評価の結果公表 書面	
幌東小	7	7	校区の子どもの教育の在り方 今年度の取組 いじめ対応	放課後子ども塾「東っ子」を授業時数に振り替える
	第2回		学校評価結果と改善策 書面	
幌西小	7	21	役員選出 1学期の様子と今後の教育活動	小中連携事業への協力(CSとの一体化を目指して)
	11	27	短縄記録会・各クラスの授業参観 子どもの総合的な学力形成	
	2	16	【小中合同】令和3年度を振り返って 学校評価結果(共通項目) 書面	
富岸小	第1回		学校経営方針の説明・承認 学校と家庭で育みたい10項目 書面	「できることをできるだけ」のスタンスで、地域・保護者の目で活動支援
	7	20	【小中合同】運営事項中間報告 学校生活の様子	
	11	6	運営事項中間報告 学校評価委員会の選定	
	3	15	今年度のCS事業 学校関係者評価	
青葉小	4	30	学校運営協議会規約・組織の確認 いじめ防止基本方針	家庭と学校の情報等の共有を考える取組
	7	20	【小中合同】学校適正配置の説明(市教委) いじめ・不登校 生徒指導	
	11	26	いじめの状況等	
	2	22	学校評価 書面	
幌別中	7	1	本年度の教育活動について 生徒の様子 長欠・不登校・いじめ	校区2小学校との合同学校運営協議会に向けて協議
	12	2	2学期の教育活動 学校評価の進め方 全国学力・学習状況調査の結果	
	2	16	3学期の教育活動 学校評価 書面	
西陵中	6	23	学校適正配置に係る説明(市教委) 一人一台端末の体験	感染状況を踏まえながら個別懇談できる機会をもつ
	11	16	学校祭の様子を映像で紹介 前期学校評価アンケート いじめ・不登校	
	2	16	【小中合同】令和3年度を振り返って 学校評価結果(共通項目) 書面	
鷺別中	6	25	今年度の活動について	感染状況を考慮し学校と地域が連携した活動を推進
	8	4	大津波避難訓練について	
	10	22	今年度の教育活動 学校適正配置に係る説明(市教委)	
登別中	7	7	グランドデザイン 携帯スマホ調査 学校適正配置の説明(市教委)	3つの支援機能 ①学習②文化伝承 ③安全環境を継続
	第2回		前期学校評価結果の説明 中止	
	第3回		後期学校評価結果の説明 中止	
緑陽中	4	30	生徒の様子	地域・家庭と学校が共通した指導を行えるようにする
	7	20	【小中合同】学校適正配置の説明(市教委) いじめ対策 自転車の乗り方	
	12	16	今年度の教育活動 家庭・地域・学校が連携した生徒指導体制 学校評価	

○各校の土曜授業取組状況

	月	日	1校時	2校時	3校時	授業	行事	振替	備考
幌別中	4	10	授業(担任)	学級懇談会	学校説明会	1	0	夏季休業	全学級公開→中止
	5	29	授業	田植え・地域清掃・花壇整備		1	2	夏季休業	CS事業 花壇整備・ふれあい農園田植体験・地域清掃→中止
	7	17	授業	授業	授業	3	0	夏季休業	参観日
	8	28	避難訓練準備	避難訓練	防災学習	0	3	冬季休業	3校合同防災学習(幌東小・幌別小)
	11	6	授業	授業(全校道徳)	授業(全校道徳)	3	0	冬季休業	全校道徳※命を大切に作る教室
幌別小	4	24	授業	授業	授業	3	0	夏季休業	
	7	17	オンライン学習	授業	児童引き渡し訓練	2	1	夏季休業	chromebookを活用したオンライン学習を実施
	8	28	授業	津波避難訓練	津波避難訓練	1	2	冬季休業	津波避難訓練(幌中・幌東小との合同開催は中止)
幌東小	11	6	オンライン学習	授業	授業	3	0	冬季休業	chromebookを活用したオンライン学習を実施 学校運営協議会授業参観3h
	4	17	授業	授業	授業	3	0	夏季休業	参観日:保護者参観中止、学校説明:書面、PTA総会:書面
	8	28	授業	避難訓練	避難訓練	1	2	冬季休業	CS事業 地域合同避難訓練(幌中と合同)→各学校で実施。
	11	6		学習発表会		3	0	冬季休業	教科
	11	27	授業		「東っ子タイム」発表会	3	0	冬季休業	総合的な学習の時間・生活科の発表会
西陵中	7	10	①②③教科	①②③教科	道徳(全校)	3	0	夏季休業	3校時全校道徳(いじめ)・端末持ち帰り訓練
	10	2	①②③教科	①②③教科	道徳	3	0	夏季休業	登別市総合防災訓練(幌別西地区) 中止
	11	6	①②③教科	①②③教科	①②③教科	3	0	冬季休業	
	12	11	①②③学活(接続)	なし(登校時間)	①②③学活	3	0	冬季休業	祈願餅の配布・端末持ち帰り&接続訓練
	8	28	授業	航空写真撮影	授業	3	1	夏季休業	70周年記念事業 4h対応
幌西小	10	2	授業	避難訓練(津波)	授業	3	1	夏季休業	4h対応
	10	23	授業	授業	お迎え訓練	3	1	冬季休業	お迎え訓練 4h対応
	11	27	授業	授業	短縄記録会	3	1	冬季休業	学年ごとに時間をずらし短縄記録会 学校運営協議会 4h対応
鶯別中	7	17	チャレンジテスト	チャレンジテスト	1・2年道徳 3年進路説明会	3	0	夏季休業	チャレンジテスト、道徳、総合
	9	11	学校祭部門活動	学校祭部門活動	避難訓練	2	1	夏季休業	学校祭部門活動、避難訓練(津波)
	10	30	1年ふるさと学習発表会 2年宿泊研修発表会 3年教科		1・2年道徳 3年進路集会	3	0	冬季休業	当初予定から30日に変更
	12	18	学活	教科	道徳	3	0	冬季休業	端末持ち帰り訓練(リモート朝の会)、道徳、新入生保護者説明会
	4	24	授業	授業	授業	4	0	夏季休業	4時間授業
鶯別小	9	25	タブレットを活用した朝の会	授業	授業	2	0	冬季休業	家庭にタブレットを持ち帰り、朝の会をオンラインで実施後、登校
	10	30	授業	授業	授業	3	0	冬季休業	3時間授業
	12	4	授業	授業(行事2年生)	授業(行事6年生)	3	0	冬季休業	学芸会(2・6年生)
若草小	7	10	授業	授業	授業	4	0	夏季休業	3時間対応(発展・補充)
	9	4	授業	避難訓練事前指導	津波避難訓練	1	2	夏季休業	4時間対応(避難訓練)
	10	16	授業 道徳	授業	授業	4	0	冬季休業	4時間対応 4h授業(発展・補充)
	12	11	授業 国語	授業 算数	授業(チャレンジテスト)	3	0	冬季休業	3時間対応 標準学力調査
登別中	4	10	授業	授業	PTA総会	2	0	夏季休業	携帯スマホ安全教室・PTA総会
	9	11	授業	授業	授業	3	0	冬季休業	リーダーシップ研修会報告会・JICA講演
	10	23	授業	授業	授業	3	0	冬季休業	生き方、人との関わり方、心のもち方を考える(職業講話、認知症、薬物乱用防止)
	12	18	授業	授業	授業	3	0	冬季休業	総合まとめ発表会・熊舞引継式
登別小	8	28	授業・2年収穫祭	授業・2年収穫祭	授業・2年収穫祭	3	0	夏季休業	2年ふるさと農園収穫祭
	11	6	スマホ安全教室(高)	スマホ安全教室(低)	スマホ安全教室(中)	2	1	冬季休業	携帯スマホ安全教室
	11	27	授業	授業	OMB定期演奏会	2	1	冬季休業	OMB定期演奏会
緑陽中	4	17	授業	授業	PTA総会	2	1	夏季休業	PTA総会 学年懇談会
	9	11	授業	授業	避難訓練	2	1	冬季休業	地区避難訓練
	11	6	授業	授業	防止教室	3	0	冬季休業	SNSにかかわる防止教室 ふれあいDAY(実施できず)
	1	29	授業	授業	授業	3	0	年度末休	通常授業
青葉小	5	8	授業	授業	授業	3	0	夏季休業	まちたんけん、ふれあい農園
	9	11	避難訓練(地震津波)	授業	授業	3	0	冬季休業	地域連携避難訓練 防災教室 三校同時日
	10	16	授業	授業	授業	3	0	冬季休業	
	11	6	授業	授業	授業	3	0	冬季休業	
富岸小	5	8	授業	低・安全教室 高・授業	低・授業 高・安全教室	3	1	夏季休業	安全教室 4時間対応
	9	11	津波対策避難訓練	1日防災学校	1日防災学校	2	1	夏季休業	小中一貫・地域連携避難訓練 1日防災学校 3時間対応
	11	6	授業	メディアトラブル講座	メディアトラブル講座	3	0	冬季休業	3時間対応
	12	5	長縄跳記録会・授業	長縄跳記録会・授業	学級活動	3	1	冬季休業	縄跳び記録会(各学年1時間) 4時間対応

○ふれあいウィーク(10/23～11/6の2週間)

11/1「北海道教育の日」に合わせて、平成16年から「ふれあいデー」として市民に市内の小中学校を公開してきたが、その取組をさらに発展させ、平成23年からは「ふれあいウィーク」として、その時期に学校公開のほかに講演会や懇談会など各種事業の取組を進めている。学校や地域、保護者が、登別の教育のあり方について考えを深め合う期間として位置付ける。

- ・学校公開（保護者や地域の方、市民への公開） 10/23か11/6のどちらかで実施する予定だったが、コロナ感染状況を考慮し、地域公開は中止とした。※授業や活動内容は「土曜授業取組状況」を参照。
- ・中学校吹奏楽部定期演奏会 10/24 緑陽中 10/31 登別中 11/7 幌別中
- ・特別支援学級作品展 10/23～29 市民会館1F廊下

○鬼っ子フォーラム(11/1)

教職員や保護者、地域住民が登別の教育の在り方を考える「教育フォーラム(令和元年度まで隔年実施)」を開催していたが、令和3年度から市内小中学校・高等学校・中等教育学校の児童会・生徒会の代表が一堂に会し、いのちの重さや人としての生き方、人との関わりについて考えを深める「鬼っ子フォーラム」を開催することとした。

<p>評価</p>	<p>コミュニティ・スクールを導入し8年が経過した。年に3回程度、学校運営協議会を開催することができたものの、小中合同あるいは幼保小合同での開催を控える中学校区もあった。地域学校協働本部事業は、令和3年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、事業や活動の縮小・中止を余儀なくされた。</p> <p>各学校に一人配置する予定であるコーディネーターの選出は、PTA役員経験者を中心に声掛けを行ったものの、令和3年度までの選出を完了することができなかった。様々な機会を捉えて、地域学校協働活動の目的やコーディネーター配置の趣旨を説明する必要がある。</p>
<p>今後の方向性</p>	<p>本市においては、これまでも地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域づくりを進める地域学校協働活動に対し、様々な学校支援を進めてきた。</p> <p>今後も、地域学校協働本部を通して、幅広い地域の方々の参画により、創意ある体験活動や交流活動が展開される環境づくりに取り組んでいく。</p>

<p>項目</p>	<p>2 小中一貫教育 幼保小連携 キャリア教育</p>
<p>点検内容</p>	<p>小中一貫教育については、「登別市小中一貫教育基本方針」に基づき、9年間の円滑な接続を図ることで子どもたち一人一人の良さを大切にした指導を継続し、中1ギャップ問題の解消や未然防止に努める。</p> <p>幼保小連携については、昨年度まで北海道教育委員会の研究指定を受けて取り組んできたスタートカリキュラムの効果的な活用や教育課程の見直しを進めるなど、引き続き円滑な接続が図られるよう支援する。</p> <p>また、キャリア教育については、登別青嶺高等学校や登別明日中等教育学校、日本工学院北海道専門学校との連携・協働により、基礎的・汎用的能力を育む取組を推進するとともに、地域企業や事業所の協力を得た職場体験などを通して、地域に愛着を持ち、地域に貢献する人材の育成に努める。</p>

取組状況

○令和3年度の幼稚園・保育所と小・中学校の連携事業

事 案	発 信 元	内 容
流行性疾病による学級閉鎖	学教G	・学校名・学年・罹患率・欠席者数
気象警報等による緊急対応	学教G・学校	・暴風雨雪警報・注意報発令時：市、学校区の対応
不審者情報・凶悪事件	社教G・学校	・警察・胆振教育局からの情報：市、学校区の対応
行事案内	学校	・年間行事予定・学芸会・運動会・卒入学式案内
学校だより	学校	・月1回作成 1部配布
教育ふれあいウィーク案内	学教G	・事業一覧(掲示用) コロナ禍のため中止
教育委員会広報	学教G	・教育行政全般の活動報告

○日常の情報交流、指導者・子どもの交流について

幼保・小・中 連携協議会	幼保小中	8/20 登別市幼保・小・中連携協議会（代表者会議） 出席：幼稚園代表・保育所代表・校長会代表・教育委員会 内容：令和3年度の取組と今後の事業推進に係る協議
	幼保小	11/8 実務担当者会議 ～幼稚園教諭10名 保育士6名 各小学校教諭8名 市教委7名 スタート・カリキュラムの改善・充実に向けたグループ協議を実施。 その中で就学前、就学後の実態や課題についても交流。 3/28・29「幼・保・小」実務担当者会議(合同引き継ぎ会) 出席：白菊幼稚園3名 リリー文化幼稚園3名 コロボックルの森2名 カトリック幼稚園2名 室蘭の幼稚園他7園13名 市内保育所7名 市内小学校20名 個々における就学前の実態やアレルギー等配慮が必要な事柄、就学後 予想される課題について、情報や意見の交換を実施。
1日体験入学	小学校	1～2月 新1年生と現1年生の交流を生活科の授業体験などを通して実施 コロナ禍により、書面開催、保護者説明会・教材購入のみの学校、新1 年生への説明・校内見学を行い交流活動は行わない学校などがあつた。
	登別中	11/19 小6年生対象で体験授業
	幌別中	2/24・28(2/1実施予定であったが中止)代替として、2校における出前授業と 中学校生活に関する説明会を実施
	西陵中 緑陽中	1/19 校長と教務主任による小6年生対象の分散説明会を実施 11/11 小6年生対象で学校の概要説明 コロナ禍のため授業参観は中止、廊下からの授業見学
	鷺別中	10/26・27 新入生体験入学 学校の概要説明、授業体験
交流活動	西陵中校区	小中合同挨拶運動(朝、本校生徒会と幌西児童会)→中止 出前授業→中止 小中交流会(両校教員による授業参観と研究協議)→中止 年4回定期テスト前、小中同時に家庭学習強化週間設定 年間、授業参観や校内研修に合わせた相互の授業見学 →中止
	幌西小	10/18 登別明日生徒による英語学習サポート 12/10 登別明日生徒 インターンシップ受入(3名)
	鷺別中校区	8/23 中学校区教員合同研修(中学校授業を参観)
	鷺別小	1/8 鷺別中学校区教頭・教務主任会議 10/26 鷺別中学体験入学(6年生)

	若草小	3月 室蘭中島幼稚園と1年生の手紙での交流
	幌別中校区	3月 リリー文化幼稚園児と1年生の手紙での交流
	幌別中	6/30 小中合同研修会(新1年生交流会)幌別小教諭2名、幌別東小教諭1名、幌別中教諭6名が新1年生の学校生活について交流
	幌別小	【再掲】2/24・28 体験入学の代替として、2校における出前授業(東小：理科幌小：数学)と中学校生活に関する説明会を実施
	幌東小	10/29 カトリック幼稚園年長児と1年生の交流(ハロウィン) カトリック幼稚園の園児を招いて、1年生と交流。学習発表会の際のダンスの交流とプレゼント交換を行った。
	登別中	11/24・26 カトリック幼稚園年長児と1年生の交流(秋のたからものランド) カトリック幼稚園の園児を招いて、生活科で準備してきた「秋のたからものランド」で楽しんでもらう交流を行った。
	登別小	2/24 出前授業(社会科授業1時間～村上教諭 学校紹介～坂本校長、木村教諭 幌中から来校)
	登別小	運動会総練習を幌別保育所の幼児が見学
	登別小	10/22 学習発表会に東保育所幼児招待 →中止
	登別小	登別小での吹奏楽部の演奏 OMBの楽器指導 →中止
	登別小	10月 登別中生徒の職業体験受け入れ →中止
	登別小	11月 コロボックル年長 1・2年生生活科に参加 →中止
	緑陽中	2/9・12 青葉小・富岸小で6年生対象に社会・数学・英語の出前授業 →中止
	富岸小	緑陽中学校区三校交流会(分科会・授業交流)→中止
	富岸小	出前授業(英語・社会) →中止
	富岸小	11/11 6年緑陽中学校体験入学
	富岸小	11/17 緑陽中学校公開研 →授業動画を見てzoomで分科会実施
	青葉小	11/11 緑陽中学校1日体験入学(6年生) 2/7 出前授業(6年生)…中止
小中合同 避難訓練	幌別中地区	8/28 幌別小・幌別東小・幌別中合同での防災学習を実施 2小学校が幌別中を避難場所とした訓練を実施 幌別中は避難訓練、避難所設営、市役所防災担当による講話(遠隔)等を実施
	西陵中校区	10/2 連合町会合同避難訓練及び総合防災訓練→中止(R4へ延期)
	緑陽中校区	9/11 津波避難訓練 →津波からの避難についてzoomで学習
	鷲別中校区	鷲中・鷲小で避難訓練同日開催 →中止(別日に第2次避難場所に避難)
	登別中地区	登別小・コロボックルの森と避難訓練同日開催 →中止
家庭科 ～保育体験	鷲別中	9/26～10/11 3年生 鷲別保育所で保育体験 →中止
	登別中	10/25, 27 3年 コロボックルの森 保育実習
	緑陽中	10/16～11/5 3年生 保育実習 →中止
総合的な学習 の時間	登別中	職業体験 2年生 コロボックルの森・登別小他、校区内事業所 →中止
	幌別中	10/19 職業体験 →中止 (代替)1/14 工学院を訪問、職業の実際に触れる機会を設けた(7コース)
	西陵中	10/29 職業体験 2年生 市内幼稚園・保育所で体験 →中止
	鷲別中	10/6 講師を招きキャリアに関するワークショップ
	鷲別中	10/19 1年職場訪問(オンライン)
	鷲別中	12/8, 11, 14 2年職業体験
	緑陽中	10/11 職業体験 2年生 校区事業所中心 →中止

幼稚園・ 保育所視察	幌別小	10/19 1年担任 カトリック幼稚園視察 →中止
	幌西小	白菊、カトリック、富士保育所との交流 →中止
	登別小	コロポックルの森 入学式、発表会、参観日等に視察 →中止
	鶯別小	保育所参観時に視察 保育所発表会(鶯別・栄町)参観 →中止
	富岸小	4/22 白菊幼稚園学校訪問(浅井先生来校)→中止
	登別中	保育実習や職業体験の時に合わせてコロポックルの森を視察 →中止
	鶯別中	鶯別保育所園児に手作りおもちゃを贈呈
	緑陽中	保育体験の時に合わせて富岸子育て広場を視察 →中止
	幌別中	例年行っている職業体験の際の視察はできなかった。 年に2回、東保育所の避難訓練場所として、敷地内を提供している。
	西陵中	職業体験に合わせて市内幼稚園や保育所を視察 →中止

○小中一貫した教育の推進

市内全中学校区で推進協議会の立ち上げ～めざす子ども像の検討、取組内容の検討、企画、実行。
中学校区内で合同研修会開催～校区内の教職員で目的や課題の共有。具体的な取組内容の確認。
西陵中・緑陽中・幌別中・登別中校区では、学校評価の項目を一部統一。成果と課題の共有化を図る。
11月の校長会教頭会合同研修会～各校の実践交流。※令和3年度は実施せず。

○キャリア教育

平成29年度から令和2年度までの4年間、日本工学院北海道専門学校校長・副校長、北海道登別青嶺高等学校校長、登別市校長会会長・副会長などが出席する「キャリア教育懇談会」、教頭や課長などが出席する「キャリア教育実務担当者会議」を開催してきた。

令和3年度は「登別市キャリア教育研修」とし、市内小中学校、登別青嶺高等学校、明日中等教育学校の教頭が工学院北海道専門学校を訪問し、工学院の教育内容に関する研修、施設の見学等を行う予定だったが、コロナ感染状況の拡大により、延期となった。

評 価	<p>昨年度、コロナ禍で交流活動が十分できなかったことを踏まえ、令和3年度は、各施設関係者が参集することやその場で各施設の考え方が共有できるような協議の場を設定することを意識してきた。実務者担当者会議において実施した「スタート・カリキュラム」を活用した協議では、小学校はカリキュラム改善に向けて幼稚園・保育所から示唆が得られるとともに、幼稚園・保育所は小学校で実際に使用されているカリキュラムを目の当たりにし、どんな指導が必要かを考えることができた大変好評であった。</p> <p>コロナ禍であったが、新入学児童が円滑に学校生活をスタートできるよう、幼稚園・保育所・小学校の担当者が一堂に会し、子どもたちの様子等について引継ぎを行った。</p>
今後の 方向性	<p>幼保小中連携については、円滑な学校間連携や接続を実現するために、相互参観や教職員・子どもの交流を継続するとともに、スタートカリキュラムの改善など、発達段階や学びの連続性を踏まえた活動の充実に努めていく。</p> <p>また、「登別市小中一貫教育基本方針」に基づき、小中学校9年間を見通した学習指導や生徒指導の充実を図るとともに、「中1ギャップ問題未然防止事業」を推進し、実践校の成果を市内小中学校に還元していく。</p>

項目	3 確かな学力の向上 学校図書館
点検内容	<p>確かな学力の向上については、課題の見られる小学校算数科に焦点をあて、教育指導専門員が地域の方々の協力を得ながら、放課後の学習機会として「鬼っ子算数教室」を開催するとともに、家庭学習の充実が図られるよう、ICTを活用した教材を提供するなど、学習内容の定着と学習習慣の確立に努める。</p> <p>また、学校図書館については、新たにモデル事業として中学校にも学校司書を配置し、読書活動の推進や授業における支援を通じた情報活用能力の育成などに努める。</p>

取組状況

○全国学力・学習状況調査（対象：市内小6年生・中3年生）

【調査の概要】

本調査は、義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力・学習状況を把握し、教育施策の成果と課題の検証により改善を図るとともに、学校での児童生徒への学習指導の充実や改善等に役立てること、加えて教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立を目的として、全国の小学6年生と中学3年生を対象に平成19年度から継続実施されてきた。

今年度は、国語と算数・数学の2教科に関する調査と、生活習慣や学習習慣等についての質問紙調査が行われ、登別市では、小学校306名、中学校332名が参加した。

また、出題形式は、新学習指導要領完全実施に伴い、平成31年度（令和元年度）より「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」を一体的に問うように構成されており、記述式の問題も一定割合で導入されている。

なお、出題範囲が調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とされていることから、令和3年度に新学習指導要領完全実施となった中学校における評価の観点は、前学習指導要領の観点が用いられている。

【教科に関する調査】

- ・小学校では、国語で全道の平均正答率と同値で、全国と比べるとやや下回っているが同程度。算数で全道の平均正答率をやや下回っている程度で、全国と比べると下回っている。
- ・中学校では、国語で全道及び全国の平均正答率をやや下回っているが同程度。数学で全道の平均正答率をやや下回っている程度で、全国と比べると下回っている。
- ・無解答率については、小学校で、2教科とも全道及全国と比べて低い設問が多い。中学校で、2教科とも全道及び全国と比べて低い設問もあるが、特に記述式の設問における無解答率の高さがうかがえる。
- ・教科ごとの傾向は、次の通り。

[国語]

- ・小学校では、文章の構成の工夫を考えること、文章全体の構成を捉えて内容を把握すること、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けること、目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約することなどに課題がある。（読むこと）
- ・中学校では、文章に書かれている事柄について自分の考えをもつこと、相手に効果的に伝わるように書くこと、文章の構成の工夫を考えることなどに課題がある。（書くこと、読むこと）

[算数・数学]

- ・小学校では、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表すこと、複数のデータを比較し割合を記述すること、示された除法の結果を日常生活の場面に即して判断することなどに課題がある。（数と計算、測定、データの活用）
- ・中学校では、数に関する事象を考察する場面において数学的な表現を用いて説明すること、条件を用いて四角形について考察することなどに課題がある。（数と計算、図形）

【児童・生徒質問紙調査】

[自分について]

- ・「いじめは、どんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」と回答した小・中学生の割合が、全国と比べて高い。また、「人が困っているときは、進んで助ける」「学校に行くことが楽しい」と回答した小学生の割合が、全国と比べて高い。

[地域や人との関わりについて]

- ・「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」と回答した中学生の割合が、全国と比べて高い。
- ・「地域行事に参加している」と回答した小・中学生の割合が、全国と比べてやや低い。

[家庭生活・家庭学習について]

- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝る」と回答した小・中学生の割合が、全国と比べて高い。
- ・「家で自分で計画を立てて勉強する」と回答した小学生の割合は全国と比べて高く、中学生の割合は、全国と比べてほぼ同等となっている。

[メディアについて]

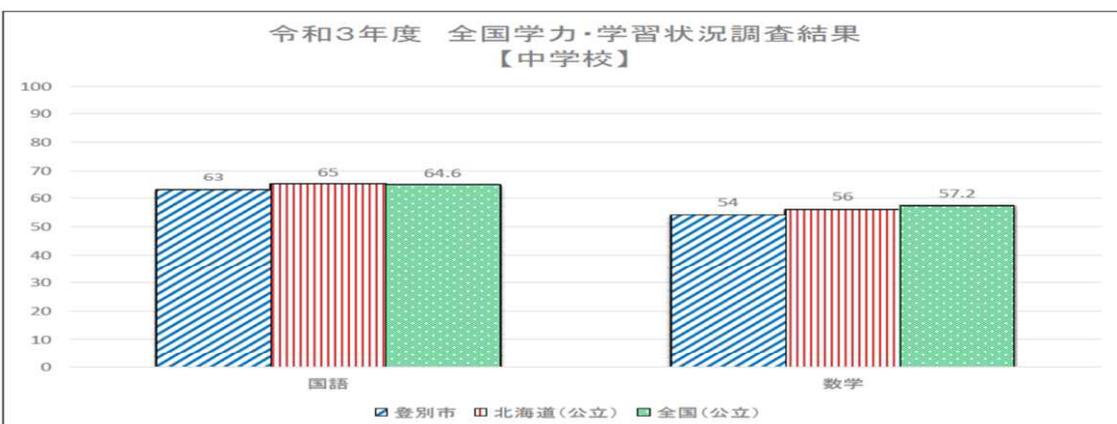
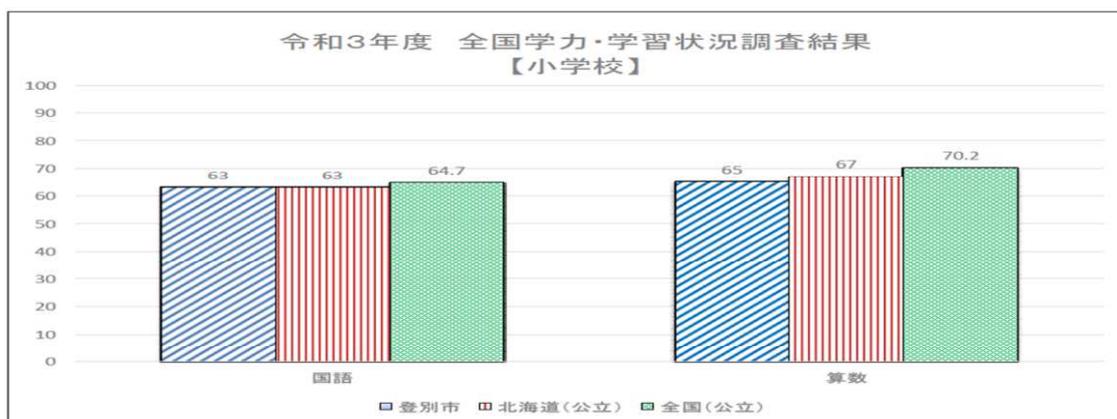
- ・「1日あたり、2時間以上テレビゲームをする」と回答した小中学生の割合は、全国と比べて高い。
- ・「スマホ等の使い方について、家の人との約束を守る」と回答した中学生の割合は、全国と比べて高い。

[学校での学習について]

- ・「授業では、課題の解決に向け、自分で考え自分から取り組んだ」「授業で自分の考えを発表する機会では、うまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した」と回答した小・中学生の割合が、全国と比べて高い。

[新型コロナウイルス感染症の影響について]

- ・休校していた期間、「勉強について不安に感じた」「規則正しい生活を送った」と回答した小・中学生の割合が、全国と比べて高い。



○各学校の取組に対する支援

①教育課程課題検討委員会

参加者：校長会研修担当、全小中学校教頭、教務主任、学力向上・研修担当等の教諭

第1回～7月29日（木）

全国学力・学習状況調査の自己採点結果から子どもの状況や課題を校種間で共有するとともに、「学習内容の定着」に向けた取組を推進し、学力向上に結び付けることを目的に実施

第2回～令和4年2月22日

全国学力・学習状況調査の自己採点結果から子どもの状況や課題を校種間で共有するとともに、「学習内容の定着」に向けた取組を推進し、学力向上に結び付けることを目的に、胆振教育局義務教育指導班指導主事による講義、学力向上策に係る成果と課題に係るグループ協議を計画

※当初、集合研修を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によりオンデマンド開催（指導主事による講義の配信）に変更して実施

②登別市学力向上プランの作成（新規）

市内13校の全国学力・学習状況調査自己採点結果から考えられた課題や授業改善のポイント等をまとめ、市内小中学校に周知（令和3年6月24日）

③学習支援専門員の配置と学校支援

・配置 教育指導室に学習指導員2名を配置。

・取組

4月 全国学力・学習状況調査の実施に向けた「心構え」と「鬼っ子チャレンジテストはじまり号・復習問題（算数）」の作成、及び、各小学校への配布

鬼っ子算数教室用教材「鬼っ子チャレンジテスト」（4～6年生）の改善

「鬼っ子算数教室」の実施に向けた準備（各校の年間実施予定の調整及び年間指導計画の策定）

5～7月 ※5月10日（月） 登別小学校 第1回「鬼っ子算数教室」以後、新型コロナウイルス感染拡大防止のため1学期は、未実施

※5月24日（月）～5月28日（金）登別小学校における授業支援

（学級担任2名の入院及び休養にかかる支援）

「鬼っ子チャレンジテスト」1～6年生（1学期分）の作成と教育委員会

ホームページへのアップロードの準備（7月末に1学期分アップロード）

「鬼っ子算数教室」の実施に向けた準備（指導者用解答の印刷及びファイル詰め、児童用問題の印刷及び封筒詰め、教室掲示用の作成）

8～9月 全国学力・学習状況調査（算数）の調査結果をもとに「解答のポイント」をパワーポイントで作成して各校に配布

※8月23日（月） 登別小学校 第2回「鬼っ子算数教室」以降、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、10月まで未実施

「鬼っ子チャレンジテスト」1～6年生（2学期分）の作成と教育委員会ホームページへのアップロードの準備

「鬼っ子算数教室」の実施に向けた準備（指導者用解答の印刷及びファイル詰め、児童用問題の印刷及び封筒詰め、教室掲示用の作成）

10～12月 「鬼っ子算数教室」の実施（幌別東小以外の7小学校）

全国学力・学習状況調査結果（算数）の分析及びチャレンジ問題への反映

「鬼っ子チャレンジテスト」1～6年生（2学期分）の作成と教育委員会ホームページへのアップロードの準備（12月末に2学期分アップロード）

1～3月 オミクロン株の感染拡大により全て中止となったため、問題をひとまとめにして、参加児童に配布し、家庭で取り組んでもらうようにした。

(3) 成果と課題

【成果】

- ・ すべての学校において、「鬼っ子算数教室」は、学習内容の理解と定着に向けた繰り返しの指導や個別指導が必要な児童生徒の学習の場として、有効に活用されており、教室の一斉指導では学習内容の定着に課題がある児童や、理解に時間を要する児童に対するきめ細かな個に応じた指導により、児童個々の理解の向上に成果を上げている。
- ・ 多くの小学校において、指導員の個別指導の中で、児童の思考のスピードや反応に応じた丁寧な対話を通して、児童が自力で課題解決できるようになっており、それが自信となり、個々の理解の深まりにつながっていると思われる。また、学習指導の経験の少ない指導員の事前の教材研究等、見えないところでの個々の努力が、大変大きいと思われる。
- ・ 自ら希望して参加している児童については、短時間であってもじっくり考えたり、自分らしい学びを実現したりするよい機会となっており、それが個々の充実感や達成感につながっていると思われる。
- ・ 身近に生活している地域の方々から直接指導を受けることを通して、地域の中で生活している実感や自分たちのために尽力してくださることへの感謝、知り合いが増える中で培われる親近感等が、自然と培われていると思われる。また、指導員も子供とのふれあいを通して、子供からパワーをもらい、それがやりがいにつながっており、指導を楽しみにしているという声を多数いただいている。

【課題】

- ・ 参加する児童に対して十分な説明と理解を促していない場合、参加児童は「やらされている」「めんどうだ」という気持ちが先に立ち、それが学習態度に現れたり、理解が深まらないこと等につながっていることが見られたが、各校で繰り返し指導していただき、後半はなくなった。
 ※ 手間のかかることは嫌がる。外套を着たまま学習したり、初めや終わりの挨拶をないがしろにする。問題用紙に名前を書かない。終わった問題用紙をゴミ箱に捨てる。文字が読めないほど整っていない。反抗的な態度をとる、など…
- ・ 基本的に教育委員会作成の同じ問題を使用して指導していることから、児童の学習実態や、学習内容の定着状況に各学校の特徴が現れており、対象児童の違いはあるものの、各学校における指導方法の結果としての実態もうかがえる。したがって、各学校の特徴を指導内容に反映させることや、学校と連携した指導をすることも、今後の課題であろう。例えば、全国学力・学習状況調査の結果において平均正答率の低かった内容について、その結果（解けなかった、身に付いていない）をしっかりと分析し、繰り返しの指導や学び直しといった対応策を確実に進めていくことが必要であろう。

○各学校の朝読書と図書ボランティアなどの活動状況

学校名	朝読書	図書ボランティア	その他
幌別小	毎朝10分	読み聞かせ・貸出返却・ALT読み聞かせ 図書館掲示	図書委員の読み聞かせ
幌西小	月水金10分	読み聞かせ・環境整備・貸出返却	図書だよりの発行・読書通帳
鷺別小	月～水20分	環境整備・新刊紹介・図書便り発行 学級文庫の設置、児童作品の展示	図書委員によるおすすめの本 コンクール・読書啓発活動 ALTによる読み聞かせ お話しぼんによる読み聞かせ
登別小	火金15分	読み聞かせ(年間7回実施)	図書館の環境整備
富岸小	火曜10分	月2回程度、朝の読み聞かせ(6月から実施)	図書館環境整備
幌東小	毎朝10分	活動なし	目標設定・読書ノート
若草小	月～金10分	読み聞かせ中止・環境整備・新刊紹介	図書委員読み聞かせ中止

青葉小	月木10分	飾付・環境整備、朝の読み聞かせ	図書ボランティアの読み聞かせ
幌別中	毎朝10分	週2回程度、読み聞かせ・貸出返却・環境整備 新刊紹介・テーマコーナー・学級文庫入れ替え	委員会補助・図書通信
鷺別中	毎朝10分	3年生への読み聞かせ(3/9)	図書館環境整備
登別中	毎朝10分	活動なし	委員会による運営 ビブリオバトル実施(2回)
西陵中	毎朝10分	12/22 1/11 (図書館司書対応)	学級文庫入れ替え・ペーパー ビブリオバトルの実施
緑陽中	毎朝10分	週1回環境整備・読書啓発	図書委員会による学級文庫の 入替・新刊の紹介

○学校図書担当者・学校図書ボランティア連絡会議

※令和3年度は学校職員のみを対象に開催

6月25日 「デジタル分館の学校での活用について」 参加者25名

○登別市学校司書連絡会議～年3回実施

1 ねらい 市内小学校に配置されている学校司書の連携を図り、互いの知識を共有することにより、さらに有効な学校図書館整備の充実を図る。

2 内容 活動内容の交流・図書館だよりなどの意見交換・本の整理や選書に関する情報交換・読み聞かせに関する情報交換 その他

○長期休業中の学校図書館の開放～(小学校及び司書の配置がある中学校)

読書活動推進の一環で、休業中の日時を設定し児童生徒に対し学校司書による貸出業務等を行った。

<利用状況>夏休み 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止

冬休み 50名 貸出冊数68冊

○小学校への団体貸出

「わくわく文庫」を除籍処理し、市内小学校全8校に1学年2コンテナ委譲。3学級以上は追加。

実績：78学級に貸し出し。(実施率100%) 提供冊数3,465冊

○小・中学生の読書感想文・感想画コンクール

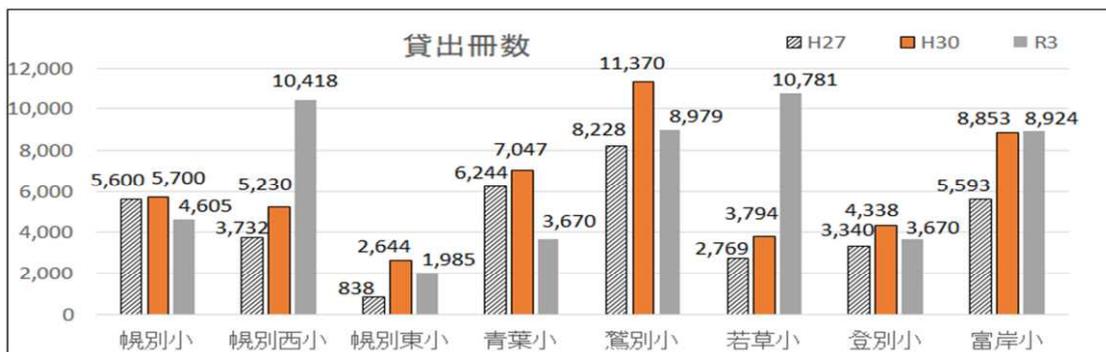
令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止

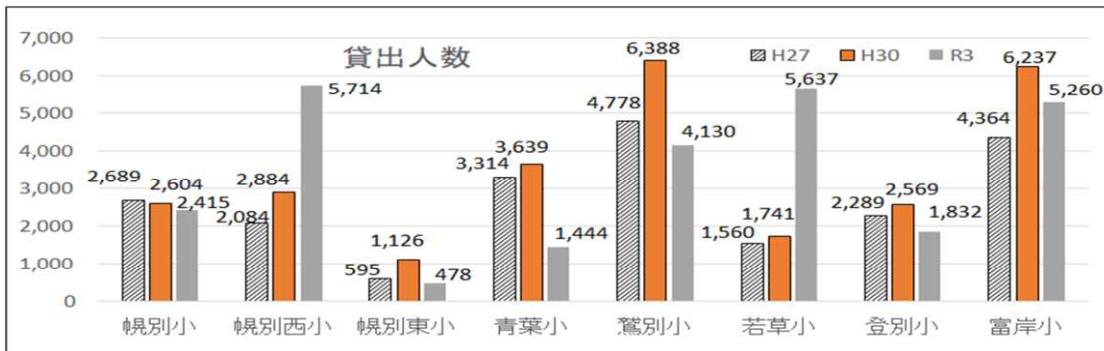
<参考>令和元年度 応募件数：感想文679作品(入選49作品)・感想画322作品(入選26作品)

○学校図書館担当職員(学校司書)の配置

図書館司書等の有資格者を段階的に2校に1人の割合で配置した。

- ・H25～H26年度 2人を4校に配置(幌別西小、青葉小、鷺別小、若草小)
- ・H27年度以降 4人を8校に配置(上記に加え、登別小、幌別東小、幌別小、富岸小)
- ・R3年度 モデル事業として中学校に司書を1名配置(緑陽中・西陵中兼務)





<p>評価</p>	<p>全国学力・学習状況調査において、小学校は、国語で全国と比べるとやや下回っているが同程度、算数で全国と比べると下回った。中学校は、国語で全国の平均正答率をやや下回っているが同程度、数学で全国と比べると下回った。算数・数学に課題があることが明らかになった。</p> <p>また、「家で自分で計画を立てて勉強している」と肯定的な回答をしている児童生徒の割合は、小中学校ともに全国と比べると上回っているので、学校における質の高い授業を基盤に予習・復習を中心とした家庭学習の充実と保護者の協力を得ながら習慣化することを目指し、算数・数学における学力向上の取組について、一層の充実を図る必要がある。</p>
<p>今後の方向性</p>	<p>確かな学力の向上については、各学校における検証と改善のサイクルに基づく学習上の課題について、登別市教育課程課題検討委員会で共有するとともに、学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を促していく。</p> <p>また、学校図書館については、学校司書の活用により、環境整備や授業支援、読書支援を通して、機能の充実を図っていく。</p>

<p>項目</p>	<p>4 英語教育</p>
<p>点検内容</p>	<p>英語教育については、引き続き小学校4年生全員の英検ジュニア受験や中学校生徒に対する英検3級検定料の半額補助を実施し、児童生徒の英語学習に対する関心・意欲の向上や実用的な英語力の強化に努める。</p> <p>また、外国語指導助手を活用し、異文化への理解とコミュニケーション能力の育成を図るため、小学校の早い段階から英語に触れる環境づくりを進める。</p>

取組状況

- 「登別市小中学校英語教育推進プログラム」の内容を基に、小学校では新学習指導要領の全面实施を見据えて取り組んだ北海道教育委員会の小学校外国語活動巡回指導教員研修事業の成果を踏まえ、教員個々が努力を重ねて継続して授業実践に取り組み、授業力を高めることができた。
- 中学校においても、円滑な学校間接続の観点から、中学校の外国語科教員の系統的指導に対する意識化が図られるとともに、従前より本市で取り組む小中一貫教育の機能を最大限活用し、専門性を発揮した授業が行われ、義務教育9年間を見通した英語教育が一体的に展開された。
- 小学校1・2年では、生活科等で年間10時間程度、国際理解教育を行った。
- 小学校への年間派遣回数～385回(昨年度371回) 中学校への年間派遣回数～205回(昨年度232回)

評価	本市では例年、外国語指導助手（ALT）を4名配置し、各学校に派遣しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により新ALTの来日が遅れ、各学校への派遣が目標の週1回以上を下回った。しかし、小学校の外国語活動(全学年)、中学校の英語の授業で教員とのチーム・ティーチング形態による指導を行うとともに、休み時間や放課後なども活用しながら、児童生徒のネイティブな英語に触れる機会を創出するように努めた。
今後の方向性	英語教育については、外国語専科教員や外国語指導助手を効果的に活用しながら、児童生徒の「聞く・話す・読む・書く」など、バランスのとれた英語力と積極的にコミュニケーションを図ろうとする資質・能力を育むとともに、生きた英語に触れる機会の拡充に努めていく。

項目	5 教職員の指導力の向上 働き方改革
点検内容	<p>教職員の指導力の向上については、引き続き登別市教育実践研究奨励校や登別市教育研究会の活動を支援し、主体的・対話的で深い学びを目指す新学習指導要領が着実に実施されるよう促していく。また、「学校力向上に関する総合実践事業」を活用し、小学校高学年の教科担任制の研究や人材育成など、包括的な学校改善が図られるよう支援する。</p> <p>さらに、教職員が子どもたちと向き合う時間を確保するため、引き続き勤務時間の適切な把握や部活動指導員の配置を進めるとともに、給食費の徴収業務の軽減や校務支援システムの導入など、学校における働き方改革を推進する。</p>

取組状況

○登別市教育実践研究奨励校

学校名	領域・教科	研究主題	年度
若草小	学習指導	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり ～系統的に学びを積み上げる国語の授業を通して～	2・3
登別小	学習指導	確かな読みの力を身に付け、言葉で豊かに表現する子どもの育成 ～「言葉による見方・考え方」を育む授業づくりを通して～	2・3
登別中	学習指導	自己の課題を見つけ、乗り越えていく力を持った生徒の育成 ～協働的な学習を通して～	2・3
緑陽中	学習指導	主体的・対話的に学ぶ生徒の育成 ～学びがわかり深まる学習指導の工夫・改善をとおして～	2・3
幌別小	学習指導	自ら問いかけ、考えを深める子の育成 ～主体的に考える算数科の授業の在り方～	3・4
青葉小	学習指導	確かな読みの力を身に付け、言葉で豊かに表現する子どもの育成 ～「言葉による見方・考え方」を育む授業づくりを通して～	3・4
富岸小	学習指導	『読みの力を身に付け、豊かに表現する子の育成』 ～「言葉による見方・考え方」を働かせる言語活動の充実を通して～	3-5
幌別中	学習指導 情報教育	主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり ～各教科における、「見方・考え方」を働かせるための学習指導の工夫～	3・4

○学校力向上に関する総合実践事業（中核校：幌別小、指定校：幌別西小、幌別東小、幌別中、西陵中）
 実施報告書(概要)：市教委

	具体的な取組	実施状況
① 指定地域への支援	<p>○地域協議会の実施計画（時期・内容等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業で取り組む大きく二つの内容について、中核校が重点的に取り組む各項目の推進状況を進行管理・評価するための「登別市学校力向上マネジメントプラン」の作成及び指定校内の共有、その活用による牽引役である中核校の成果の明確化及び指定校との好事例の共有 ※5・8・11・2月の4回開催を予定 ※義務教育指導監・指導主事による指導助言 ・中核校の授業公開及び研修機会に係る協議 	<p>○年度当初に「登別市学校力向上マネジメントプラン」を作成し、中核校の取組を市内学校に周知したことや、校長会をベースに地域協議会を開催したことにより、市内全体の取組として、各種事業を推進することができた。</p> <p>○地域協議会は予定通り年4回実施（うち1回は書面会議として開催）</p> <p>○12月10日（金）に中核校学校公開を開催し、市内外より約65名が参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中核校の実践として「教員の資質・能力の向上」と関連させた学校研究を説明を行った。 ・また、中核校や指定校の取組発表とともに、各中学校区からも事業内容に沿った実践内容を発表し、取組を共有した。 <p>○第4回地域協議会で取組検証を行うために、マネジメントプランに示した事業内容や項目についてアンケートを実施（市内全学校を対象。協議会では、「本事業の取組検証」として、アンケート結果をレーダーチャート等を用いて可視化するとともに、数値目標に対する達成度を明示しながら各事業内容の検証を行った。</p>
② 指定地域の取組成果の普及	<p>○各学校の改善状況や成果等の把握、検証方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校高学年における教科担任制に係る実践的研究を踏まえた成果等、成果普及資料の作成及び市内全小・中学校への配付・発信・説明機会の設定（中核校加配教員の主導） ※6・2月の2回を予定 ※義務教育指導監・指導主事による指導助言 ・中核校及び全指定校の学校評価（内部評価）の「中核校の取組成果を、自校の包括的 school 改善のために活用できた」等の肯定的回答を80%以上 ・市内全校を対象とした年2回以上の中核校・指定校による授業公開開催 ・地域協議会における市内全域への成果普及に効果的な資料の様式及び発信内容の具体に係る協議・検討（中核校のリーダーシップ） ※5・8・11・2月の4回開催を予定 <p>○成果普及の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中核校による学校公開における授業公開及び実践発表を実施 ・加配教員が作成した成果資料等のデータベース化（市内の教員を対象に利活用を促進） ・ミッション事務加配による校内の取組を発信 ・働き方改革推進コアチームの積極的な参画の在り方を発信 	<p>○中核校の取組成果を、自校の包括的 school 改善のために活用できた」と回答した割合が86.5%で達成した。</p> <p>○12月10日に開催した中核校学校公開において、専科教員による授業公開及び実践発表を実施した。</p> <p>○その他、市教研英語部会における交流や、外国語専科教員との交流（2回）、中学校外国語教員教員との交流（3回）、小中学校相互の授業参観（5回）を実施した。</p> <p>●上記内容も含め、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中核校及び指定校では、少人数での研修交流や授業公開は行ってきたが、市内全体を対象とした授業公開は1回（12月10日開催の学校公開）のみとなった。（各校との協議の上）</p> <p>○マネジメントプランを基にしながら、年度当初に取組内容等を計画したことに加え、中学校区を意識した協議場面を設定したことにより、1年間の見通しをもって取組を推進することができた。</p> <p>○また、中核校校長が中心となり、地域協議会の場のほかに、適宜「校長協議会」を開催したことにより、指定校をはじめ、市内各校の取組や進捗状況等を把握・確認することができた。</p> <p>○中核校学校公開における授業公開及び実践発表のほか、外国語専科教員の成果として、これまでの実践資料等を、7月下旬に、市内共有サーバーにデータベースとして公開し、市内学校に普及還元した。</p> <p>○市教委としては、全道協議会（7月開催）における中核校・指定校での協議内容（働き方改革）を市内各校に伝えるとともに、地域協議会において、中学校区ごとの協議の場を設定することにより、各校の取組把握や情報共有はできた。</p> <p>●しかし、発信は、上記内容と、学校公開開催時の資料提示の計2回で、「積極的に」発信してきたとは言えないので、次年度は、意識して発信していく。</p> <p>○ミッション事務加配の取組については、事務職員同士のネットワークで情報共有がなされてきたが、第4回地域協議会（2月10日開催）において、働き方改革の観点と関連させた実践発表を実施する。今後も、中核校の取組を積極的に発信しながら、市内全体のものとしていくことが確認される。</p>

実施報告書（概要）中核校：幌別小

○加配教員及び事務職員を活用した取組

<p>加配教員の活用方法</p> <p>○複数の小学校で効果的に教科担任制を実施するための工夫 ※実施要綱第4-1(2) <small>※専科指導の実施計画については、様式3に記載</small></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語科アンケート（児童の授業評価）の分析を共有し、授業改善に生かす。 ・ICTの活用（1人1台PCや児童用デジタル教科書の活用、リモートによる交流学习等） ・実施3校での授業ルールやスタイルの共有（専科指導教員と3校教頭による確認） ・専科指導教員と中学校英語担当教員と授業交流・情報交換を実施する。 <p>○中核校・指定校の成果普及の取組 ※実施要綱第7-3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会における成果の発表 ・幌別小学校（中核校）による学校公開（12月10日金）にて、外国語科専科の授業公開と実践発表を実施し、広く管内の小・中学校へ成果を発信する。 ・市内小学校高学年担任が外国語科専科の授業を参観できる機会を設定する。 <small>（リモートでの参観も含め）</small> ・成果資料や作成物等を市内の他の小学校教員も活用できる「外国語お役立ちデータ・ベース」（市内共有サーバー）の運用 	
<p>加配事務職員の活用方法（配置校：幌別小学校）</p> <p>○働き方改革推進のコアチームの構成員としての役割（加配事務職員配置地域のみ） <small>※ミッション加配としての活用方法については、様式4に記載</small></p> <ul style="list-style-type: none"> ・加配事務職員の視点からの業務改善の提案と実践 <small>（会議資料や周知文章のペーパーレス化の推進、メール配信の利便性の向上、ホームページの充実等）</small> ・加配事務職員の校務運営参画機会の拡充 <small>（ICTを活用した授業における機器操作のサポート、勤務時間・在校時間のデータの整理等）</small> 	

○地域全体の学校が共通して取り組む事業内容

(1) 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学校改善

実施計画書			実施報告書
事業内容	具体的な取組	到達目標 (検証方法)	①到達目標に対する成果・課題 ②成果について、校長として工夫した点
<p>学習指導の充実</p> <p>ア 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた指導方法や教材等の工夫 イ 1人1台端末の日常的な活用による授業改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る校内研修の推進 ・ICT活用の学習場面を想定した授業研究の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価（内部評価）の肯定的回答を80%以上 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○算数科における研究内容と「個別最適な学び」「協働的な学び」を関連させることで、研修を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、日常的な授業改善を図ることができた。 ② 職員室 classroom を立ち上げ、ICT活用事例を積極的に掲載することを通して全教職員のICT活用を促した。 <small>※研修に係る内部評価平均98.4%</small>
<p>教員の資質・能力の向上</p> <p>ア 日常実践に直結する校内研修（ミニ研修、ICT活用指導力の向上を含む）の促進 イ メンター研修の推進による中堅・若手教員の計画的な育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校におけるICTの基礎理論や機器の操作に関する研修機会の設定 ・メンター研修の在り方を見直し、職員構成にあった中堅・若手教員の育成に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTに係る研修3回以上実施 ・中堅・若手の育成に関する学校評価（内部評価）の肯定的回答80%以上 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICT活用に係る研修を3回実施。そのうちの1回は地域の専門学校の職員を講師に招聘し実施した。 ② ICT校内委員会を若手教員を中心に組織し、教職員が主体的にICT活用を推進できる環境を整えた。また、毎週水曜日に短縮日課を取り入れ、学年研修の時間を確保することで、ミドル層の学年主任から、初任者層への指導（OJT）の充実を図った。 <small>※ICT活用に係る研修を3回実施。 <small>※教員の資質向上に関する内部評価100%</small></small>

(2) 「北海道アクション・プラン（第2期）」を踏まえた、質の高い教育活動を持続的に行う
「手引 Road」を活用した働き方改革の実施

実施計画書			実施報告書	
事業内容	具体的な取組	到達目標 (検証方法)	①到達目標に対する成果・課題 ②成果について、校長として工夫した点	
改革プロセスの明確化	<p>ア 個々の教職員の課題意識を踏まえた改革の目標設定</p> <p>イ 改善効果の明確化と効果の定期的な検証</p> <p>ウ 全教職員の在校等時間の客観的な計測とその記録の共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が自ら考え取り組みながら業務の軽減や平準化、効率化を目指すプロセスの構築 ・改革推進に向けたチームの再編（コアチームの編成） ・効果の定期的な検証（データの整理と教職員との共有） ・月ごとの在校時間の変化を教職員と共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革に係る学校評価（内部評価）の肯定的回答を80%以上 	<p>①</p> <p>○月ごとの在校時間の変化を可視化するとともに、取組状況の分析結果や工夫の仕方を提示することを通して、在校時間を縮減することができた。</p> <p>●コアチームによる提案・検証が難しく、改善を軌道に乗せることができなかった。</p> <p>② 職員の気付きやアイデアを形にすることを奨励。また、学年・学級等の作成物について整理・統合することを通して、教職員の業務負担軽減を実現した。</p> <p>※業務改善・働き方改革にかかる内部評価71.5%</p>
業務の効率化に向けた取組の充実	<p>ア 課題に応じた「5つの業務改善・効率化の観点」の実践</p> <p>イ ICTの活用（教材作成等授業準備、朝の打合せや職員会議等でのペーパーレス化、教員研修の効率的な実施）</p> <p>ウ 部活動休養日等の完全実施、学校規模に応じた部活動数やシステムの見直し、地域との連携など部活動指導に係る負担の軽減（中学校）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SSSや学習指導員、学習支援員などのスタッフや地域・保護者、外部人材等の積極的な活用の推進 ・事務職員（加配）の校務運営への参画機会の拡大（ICT活用のサポートなど） ・新しい校務支援システムを活用した業務改善の推進 <p>・部活動について、学期中は、週当たり2日以上、土曜日より1日以上、土曜日及び日曜日についても1日以上）また、年間の休養日を104日以上設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化に係る学校評価（内部評価）の肯定的回答を80%以上 ・部活動年間計画を作成し、休養日については適宜点検する。 	<p>①</p> <p>○加配事務職員が積極的に校務運営に関わることで、担任業務の負担軽減を実現することができた。（徴収金の事務取扱、ICT活用に係る職員や児童への操作・接続のサポートなど）。</p> <p>○ICTを活用した学校評価（保護者・教職員）の実施やChromebookを活用した日報・欠席連絡システムの構築を通して「定型業務の自動化」を実現させることができた。</p> <p>② 事務職員の視点から、学校業務の改善点を提案させながら、実現に向けてサポートする体制を構築してきた。教頭以下に日常業務におけるICT端末の有効活用を試行させ、効果の検証・改善を指示する。</p> <p>※校内外の人材の効果的な活用に係る内部評価95.2%</p> <p>①</p> <p>○休養日の確実な設定については概ね達成することができた（平日1日、土日のうち1日）。また、部活指導を平準化し、休みやすい環境を整えることができた。</p> <p>② 部活指導員の活用等で複数指導体制を確立することで、担当者の負担を平準化した。また、適宜、休養日について点検し、指導者への指導を行った。</p>

○働き方改革の推進

- ・「登別市立学校における働き方改革基本方針(平成30年10月策定・令和2年3月改定)」に基づき、教員が本来担うべき業務に専念できる環境の整備に努める。

【基本方針の目標】

教育職員の在校等時間から所定の勤務時間等を減じた時間(いわゆる「時間外勤務」)を1か月で45時間以内、1年間で360時間以内とする。

【目指す指標】

- 1 部活動休養日(平日週1日・休日週1日・学校閉庁日の年間合計=113日)を完全に実施している。
- 2 変形労働時間制を活用している。
- 3 定時退勤日を月2回以上実施している。
- 4 学校閉庁日を年9日以上実施している。 ※以上4指標は、令和元年度中に達成している。

【主な具体的取組】 令和元年度以降に検討または実施したもの(以前から実施済みの取組は除く)

- 1 教職員の事務負担を軽減する校務支援システムを導入(令和3年度末に試行、4年度から導入開始)。
- 2 給食費については、給食費管理システムを導入(令和3年度から導入開始)
- 3 部活動指導員を配置する(令和3年度は4名配置)。
 - 幌別中バレーボール部1名 西陵中バレーボール部1名
 - 緑陽中バスケットボール部1名・ソフトテニス部1名
- 4 在校時間を客観的に計測するシステムを導入する(平成31年4月から記録を開始)。
- 5 留守番電話の設定(平成31年4月から対応を開始)

<p>評 価</p>	<p>令和3年度の学校力向上に関する総合実践事業は「指定地域」として、幌別小学校を中核校、幌別中学校区と西陵中学校区の他の4校を指定校として実践を重ねてきた。中核校は地域全体で取り組む事業内容のほかに、小学校高学年における加配教員の活用、指定校においては、その成果を学校公開や地域協議会の場を活用しながら市内各学校に普及還元してきた。また、市教委は市内全体の学校力の総合的な向上を目指してマネジメントプランの提示等を通じた「取組の可視化」「進捗状況の明確化」を意識してきた。</p> <p>登別市教育実践研究奨励校については、8校が指定を受け、各校の研究の経緯や実態に即した研究主題のもと、全校が学習指導をテーマに取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、公開研究会の開催を断念したり、参加対象を市内の教職員に絞ったりする必要があったが、研究紀要の作成・配布により研究の成果を発信するなど、研究の質を高めることができた。</p>
<p>今後の方向性</p>	<p>教員の指導力の向上については、登別市教育実践研究奨励校や登別市教育研究会の活動を支援するとともに、授業力向上を目指した研修を充実させるなど、対面での指導とICTを効果的に活用した指導の最適な組み合わせにより「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を図っていく。</p> <p>また、校務支援システムの効果的な活用や道教委の指定を受けた「学校力向上に関する総合実践事業」の成果のもとに、業務改善や効率化を図り、教職員が子どもと向き合う時間をさらに確保できるよう、努めていく。</p>

項目	6 ICTの活用
点検内容	<p>ICTの活用については、「1人1台端末」を活用した授業を推進し、児童生徒の特性や学習進度等に応じて、きめ細かな支援ができるよう、登別市情報教育推進協議会と連携し、研究と実践を重ねる。</p> <p>また、授業改善と学びの充実の観点から、小学校算数科と中学校英語科において指導者用デジタル教科書を導入するとともに、国の「学習者用デジタル教科書実証事業」を活用し、その教育効果を検証する。</p>

取組状況

- 端末活用状況把握に係る学校視察（4月19日～5月14日）
 - ・市内全13校の授業参観及び活用のヒアリング
- 登別市情報教育推進協議会
 - ・回数：4回開催（①5月19日、②8月23日、③11月15日、④1月25日）
 - ・主な内容：各校における端末活用や各種取組状況の共有
課題の明確化及び整理、課題解決に向けた取組の検証
- 登別市教育情報セキュリティポリシーの策定（令和3年5月18日）
- 登別市学校教育情報化推進計画の策定（令和3年5月25日）

これまで運用していた「登別市情報教育推進計画」を、一人一台端末をはじめとするGIGAスクール構想等の各種施策との整合性を図りながら再策定
- のぼりべつICTハンドブックの作成配付（令和3年12月21日）

本市で目指す情報活用能力や端末活用の在り方、オンライン学習の在り方について、また教職員に求めるICT活用に関する資質・能力等を掲載
- Google for Education - Kickstart Program 研修
 - ・日 時：令和4年1月11日
 - ・参加者：市内小中学校教職員12名
 - ・内 容：教育現場で有効とされるGoogleの主要サービスを中心に、操作方法、活用のための土台となる情報、アプリの使用方法、共同編集などの操作等について
- 令和3年度登別市教職員研修会（北海道立教育研究所「教育関係機関等連携」研修講座）
 - ・日 時：令和4年3月25日
 - ・参加者：市内小中学校教職員31名
 - ・内 容：GIGAスクール構想で求められている授業改善及び校務の情報化について理解を深め、自校における一人一台端末を活用した教育活動の充実を図る。
- のぼりべつICT情報交流（揭示版）

GoogleClassroomの機能を活用し、市教育指導専門員が運営し、定期的な更新を図る。主に各校の端末活用や授業の実際、国や道の最新動向、端末機能及び活用の実例、研修資料等を掲載。

評価	GIGAスクール構想の実現に向けた環境整備を進めるとともに、一人一台端末の活用に係る研修会や諸会議などを企画・実施することができた。ICT揭示板への書き込みを通して定期的な情報発信等を行いながら、児童生徒及び教職員のICT活用能力向上に努めた。
今後の方向性	ICTを活用した学びの充実については、GIGAスクール構想に基づき「1人1台端末」の整備を完了したので、登別市情報教育推進協議会と連携し、児童生徒の情報活用能力を育成するとともに、学校や家庭においてオンライン上で学習できる「文部科学省CBTシステム」を導入するなど、誰一人取り残すことなく学びを止めない環境を整備していく。

項目	7 豊かな心の育成
点検内容	<p>豊かな心の育成については、自然体験や社会体験、ボランティア活動など、各学校の実践を継続するとともに、「考え、議論する道徳」の授業を中心に、いのちを大切にすることや思いやりの心、いじめを許さない心を育む道徳教育の取組を支援する。</p> <p>また、望ましい生活習慣の確立に向け、市内小学校6年生の約4割以上、中学校3年生の約7割以上がスマートフォンを所持している現状を踏まえ、登別市校長会・登別市PTA連合会とともに定めた「ケータイ・スマホ3つのルール」の周知徹底を図るとともに、児童生徒がメディアとの接し方を主体的に考える取組を促す。</p>

取組状況

○自然体験や社会体験、ボランティア活動等、豊かな心を育む体験活動

幌別小	<p>通年 全学年による学級園を中心とした栽培活動 3年生による花壇への花の移植、草取り</p> <p>通年 児童会活動として、リングプル回収、車いすへの交換活動</p> <p>通年 栄養教諭による食育指導(全学年)→中止</p> <p>4/16 交通安全青空教室(交通指導員の協力) 2年生以上は実際に自転車に乗車して正しい自転車の乗り方について、1年生は路上に出て正しい歩き方についての練習を行った。</p> <p>4/19 安全指導集会(講師:室蘭警察署員)→中止</p> <p>5~12月 幌中地区ふるさとふれあい農園活動(地域学校協働本部事業)→中止</p> <p>5/25 田植え(地域学校協働本部事業)→中止</p> <p>7/3 2年生 世代間交流 昔の遊び体験 13名の地域の方が協力 →中止</p> <p>7/4 室蘭警察署見学(4年)→中止 9/20 乗馬体験(地域学校協働本部事業)→中止</p> <p>9/19 パラマラソン伴走者 中田崇志氏 講話 5年 →中止</p> <p>9/21 乗馬体験(学校支援地域本部事業)→中止</p> <p>10/6 ふれあい農園 稲刈り(地域学校協働本部事業)→中止</p> <p>11/22 5年総合 認知症キッズサポーター養成講座 包括支援センターあおいの講師から、地域の現状や認知症について学び、認知症患者に対するサポートの大切さについて理解を深めた。</p> <p>12/13 邦楽鑑賞会 6年(登別三曲協会協力)→中止</p> <p>12/21 ふれあい農園 収穫祭(幌小実施、地域学校協働本部事業)→中止</p> <p>2/12 スキー学習(5・6年)→中止</p> <p>9/25 アイヌ文化学習(4年、アイヌ文化活動アドバイザー協力)→中止</p> <p>5/27 縄文出前講座(6年) 菅野学芸員から、登別周辺の縄文人の食生活について話を聞き、本物の土器や石器に触れた。縄文文化について興味・関心を高め、理解を深めた。</p> <p>7/6 いじめ防止授業(3年、文化芸術による子供の育成総合事業~芸術家の派遣事業) 外部講師による演劇を鑑賞し、児童がいじめについて考え、いじめがいけないことであると再確認することができた。</p> <p>10/1 3年登別温泉見学学習 地獄谷や温泉街を散策し、施設見学や体験を通して、地元の観光業の中心である登別温泉について理解を深めることができた。</p> <p>6/29 ふおれすと出前講座(5年) 宿泊学習の事前学習として、ふおれすと鉱山から講師を招き、鉱山町の歴史や鉱山町でとれる岩石、付近に生息する動物等について理解を深めた。</p> <p>10/29, 11/1 3年社会科見学(ドーピー建設工業見学) 「ドーピー建設工業」の工場見学を通して、働く人たちの知恵や工夫・苦労について理解を深めた。</p>
-----	---

	<p>10/27 4年総合 見学学習(ウポポイ) 社会科や総合的な学習でアイヌ文化について事前学習を行った。ウポポイ見学では、アイヌ文化の歴史や文化の多様性に気づき、深い学びにつなげることができた。</p> <p>11/11 スマホ・ケータイ安全教室(4~6年) 講師:携帯電話会社担当者 携帯電話の使用上のマナーや危険性、問題点に学び、正しい使い方について学んだ。</p> <p>12/15 消防出前講座3年⇒中止</p> <p>12/3 非行防止教室(5・6年 講師:室蘭警察署) 携帯電話を使った犯罪の現状について講話を受け、トラブルに巻き込まれないために気を付けるべきことを学んだ。</p> <p>5/13 租税教室6年 室蘭税務署から広報官を招き、税金のない世界のアニメ視聴をすることを通して、税金の大切さについて理解を深めることができた。</p> <p>11/9 5年福祉出前講座⇒臨時休校のため延期</p> <p>11/25 5年総合 福祉出前講座・あいサポート講座(講師来校) 視覚に障がいのある方を講師として招き、交流や介助など自分たちにできるサポートの体験をし、理解を深めた。</p> <p>1/15,22 サンライバ雪遊び(1・2年)⇒中止</p> <p>12/14 3年総合(国際交流 登別・室蘭市内在住の外国人講師による母国の紹介) トーゴ共和国出身のアシイさんを招き、同共和国についての講話を受け、理解を深めると同時に、日本と外国との文化の違いについて理解を深めることができた。</p> <p>2/4 6年卒業制作 健千窯から講師を招き、陶芸体験を行った。 製作した作品を卒業記念品とした。</p> <p>プログラミング体験学習(工学院) 2~3月上旬にかけて計画されたが、コロナ禍により中止。</p>
幌西小	<p>学級園等での栽培活動(全学年)</p> <p>4/22 交通安全教室 5/10 租税教室(6年) 5/10 校外班集会・集団下校(全学年)</p> <p>5/12,11/10,3/16 おたすけ清掃(PTA) 6/28 縄文出前講座(6年)</p> <p>7/19 栄養教諭食育授業(2年) 9/3 遠足(1-4年) 9/14 栄養教諭食育授業(4年)</p> <p>10/11,13 ドーピー工場見学(3年) 10/13,3/3 ふれあい清掃</p> <p>10/15 キウシト事前学習(2年、NPO法人キウシト) 10/21 メグミルク食育(4年)</p> <p>10/23 お迎え訓練(災害時を想定した引き渡し訓練) 10/27 キウシト現地学習(2年)</p> <p>10/26 ふおれすと校外学習(3年) 10/28 アイヌ見学学習(4年) ※ウポポイ</p> <p>11/25 人権教室(2・4年) 室蘭法務局 11/26 開校70周年をお祝いする会</p> <p>12/15 マンドリン鑑賞会(3,4年) 1/29 ふれあい冬まつり(PTA) →中止</p> <p>2/1 川上公園校外学習(1年) 2/18 川上公園校外学習(2年) 2/3 英検Jr(4年)</p> <p>2/28 スキー学習(5・6年)→中止</p>
鷺別小	<p>4/9 なかよし登校~13日 5/11 人権の花(2年) 6/1 縄文出前講座(6年)</p> <p>7/20 租税教室(6年) 8/26 認知症キッズサポーター講座(5年)</p> <p>9/8 食育指導(3年) 10/5 ウポポイ見学(4年) 10/7 パロマ工場社会科見学(3年)</p> <p>10/25 食育指導(4年)</p> <p>10/28 文化芸術による子ども育成事業「狂言」ワークショップ(6年)</p> <p>10/29 アイヌ文化学習(4年) 11/4 出張アート教室(5年)</p> <p>11/8 校外学習(買い物体験 特別支援学級)</p> <p>11/12 登別温泉街・郷土資料館見学学習(3年) 11/19 人権教室(3年)</p> <p>11/30 文化芸術鑑賞(6年) ※狂言に児童4名参加 LINE プログラミング学習(3年)</p> <p>12/14 防犯教室~16日(昼放送) 若草小とのオンライン交流学習(特別支援学級)</p> <p>1/21 ふおれすと鉾山自然体験学習(5年)</p>

	<p>2/1 思春期保健師兼助産師による性教育（6年） 2/18 福祉学習（5年） 2/24 ひなわし委員会によるピンクシャツデーの取組 3/2 福祉学習（5年） 3/9 福祉学習（5年） 通年 学級園での栽培活動（全学年） 通年 ひなわしの木へのメッセージ掲示（児童会） 世代間交流（1年）→中止</p>
登別小	<p>ベルマーク・リングプル回収(全学年) 学級園等での栽培活動(全学年) 4/21 交通安全青空教室(1・2・3・5年)登別市交通安全協会 →中止 5/8 サケの稚魚放流(登別さけ・ます孵化場)地域支援本部事業 5/12 ふるさと農園でジャガイモの植え付け(地域ボランティア参加) 7月 OMB地域行事参加(5・6年)登別わくわく広場 →中止 8月 OMB地域行事参加(5・6年)地獄まつり →中止 8/28 ふるさと農園収穫祭(2年)地域ボランティア参加 10/9 サケの採卵体験(登別さけ・ますふ化場)地域支援本部事業 10月 登別中吹奏楽部演奏会参加(全学年)→中止 11/2 ウポボイ見学(4年) 11/5 認知症キッズサポーター養成講座(5年) 11/6 携帯スマホ安全な利用について(全学年) 11/27 OMB定期演奏会 5・6年 保護者参観 1月 豆まき集会～いじめ撲滅や交通安全に対する標語作成(全学年)→中止 1/28 世代間交流(1年)地域ボランティア参加 →中止 2/18 不審者対応訓練(全学年)・・・令和4年は実施しない(隔年実施) 3/11 福祉体験学習(3・4年)登別市社会福祉協議会</p>
富岸小	<p>7/13 縄文出前講座 6年 7/13～7/21 12/15～21 「ケータイ・スマホ3つのルール」強調ウィーク 春～秋 花壇や学年園、生活科での栽培活動 6/1 ふれあい農園活動(畑の先生)2年 通年 玄関ホール・各教室での飼育活動 6・7・11・12月 児童会活動によるいじめ防止のためのあったか富岸小運動 6/23,11/2 キウシト湿原学習 3年 年2回実施 1回目はzoomで実施 2回目は、湿原観察や外来植物の駆除を実施 7/20・8/27 栄養教諭食育授業6年・2年 9/3 芸術鑑賞(音楽鑑賞)→中止 10/26・10/28 4年福祉出前授業 視覚障害の方の講和、体験学習 11月 教頭によるいじめについての特別授業(高) 担任によるいじめについての特別授業(低) 11/18 ウポボイ見学4年 1/29 PTA祭り →中止 2/1 租税教室6年 →中止 2/21 人権教室4年 →中止 2/25 認知症サポーター養成講座5年 →講師の来校は中止。担任が授業を実施。 2/22・24 スキー学習5年・6年 →中止</p>
幌東小	<p>児童会による「いじめをなくすための取組」 学級園を中心に栽培活動と学級花壇のお世話(5～10月) ふれあい農園 田植え 稲刈り 収穫祭 →中止 郷土芸能「幌別駒踊り」の継承(全校児童)→中止 8～11月に月1回練習 12月幌別地区市民演芸会参加(全校児童) 5/10 3年市役所見学 1・2年世代間交流「ふれあい集会」(地域お年寄りとの交流)→中止 校外班による校区のクリーン作戦(清掃活動)→中止 9/14 3年ドービー建設工業見学 9/27 3年酪農館見学 10/4 4年ウポボイ見学 10/14 3年消防署見学</p>

	<p>11/12 4年クリンクルセンター見学</p> <p>12/22 4年認知症サポーター授業 12/16 3年警察署見学</p> <p>12/2 1年郷土資料館リース作り 1/26 1年郷土資料館 凧作り</p> <p>2/15 6年薬物乱用防止教室 2/16 5・6年スキー学習 →中止</p>
若草小	<p>通年 児童会によるリングプル回収</p> <p>通年 学級・学年の昆虫等の飼育ですることにより生き物と触れ合える場としている</p> <p>2学期 児童会による「友達をたくさんつくるには」の活動 ～各自が思いや考えなどを書いた紙を貼り、掲示する(いじめ防止・豊かな心の育成)</p> <p>4/28 町会下校指導：出会いのつどい 月2回程度、1・2年の下校を引率してくれる地域の方々とのふれあいの場</p> <p>5/10 ふれあい農園(じゃがいもの植栽 1・2年) 5/14 遠足(1～4年)</p> <p>5/20 人権の花運動(2・4年) 5/26 縄文出前講座(6年)</p> <p>7/6 食育授業(カルビー・4年) 7/15 食育授業(ヤクルト・3年) 7/16 租税教室(6年)</p> <p>8/25 食育授業(明治乳業・2年) 10/14 ウポポイ見学(4年)</p> <p>10/28～29 ふれあい学習(5年) 11/16 食育授業(栄養教諭 5年)</p> <p>11/18 見学学習(郷土資料館・2年) 11/19 見学学習(地獄谷、カントレラ・3年)</p> <p>11/29 見学学習(三好製作所、函館方面どっく・5年)</p> <p>12/9・16 食育授業(メグミルク・6年) 12/20 認知症サポーター養成講座(5年)</p> <p>11/18 食育授業(栄養教諭・1年) 2/3・8 福祉について学習(5年)</p>
青葉小	<p>通年 リングプル回収(車いすへの交換活動、児童会活動)</p> <p>通年 たたら製鉄学習「総合的な学習の時間」(5年)</p> <p>通年 キウシト湿原学習「総合的な学習の時間」(4年)</p> <p>4/27 交通安全教室(全学年) 5/8 ふれあい農園(2年) ジャガイモ植え</p> <p>6/9 縄文出前講座(6年) 6/11 キウシト湿原の会の方による出前授業 4年</p> <p>10/1 キウシト湿原での自然体験学習 4年</p> <p>10/4 たたら製鉄(5年)室蘭・登別たたら会指導 出前授業(事前学習) ⇒ 10/5 たたらレンガ積み体験 12/9 ケラ渡し 2/4 和釘づくり</p> <p>12/21 認知症サポーター養成講座(5年) 1/27 見学学習(4年)白老ウポポイ</p> <p>1/27 租税教室(6年)</p> <p>2/24 福祉学習出前授業(視覚障害者招聘)6年 ⇒ 3/1 出前授業(車いす体験など)6年</p>
幌別中	<p>通年 毎定期テスト1週間前より、「携帯・スマホ制限期間」を設定(2小学校とも連携) 社明運動や人権、男女共同参画に係る作文コンクールや書道展への出品</p> <p>5/29 から ふれあい農園活動(通年)→中止 7/16 DBA集会(いじめ撲滅集会)</p> <p>7/19 非行防止教室 (喫煙防止、スマホ・携帯の使い方に係る講座〔全学年〕講師：室蘭警察署員)</p> <p>8/28 3校合同防災学習</p> <p>9/17 総合発表会において「ふるさと登別」「アイヌ文化」等をテーマとして行灯披露 その後、市内商業施設に展示</p> <p>10/5 1年校外学習(ふおれすと鉱山における自然体験学習)</p> <p>10/20～21 2年宿泊研修(道南地域における縄文文化に関する学習)</p> <p>10/27 ボランティア局地域清掃</p> <p>11/6 「命の大切さを学ぶ教室」実施(土曜授業:交通死亡事故被害者遺族による講演)</p> <p>11/10・11・16 すばる学級職業体験(すずかけ ほか)</p>

	<p>11/18 すばる学級校外学習(ウポポイ)</p> <p>11/24 校内主張大会～それに向けた全校的な取組</p> <p>12/14 性の講演会(3年 講師: The Birds and Bees 代表 高村泰子 氏)</p> <p>12/17 認知症サポーター養成講座(2年生) 講師: 登別市地域包括支援センター職員</p> <p>12/20 SNS・メディアとの望ましいかかわり方講演(全学年) 講師: NPO 北海道子どもとメディア 中谷 通恵氏</p> <p>2/22 性の講演会(2年 講師: 市保健師3名)→中止</p>
鷺別中	<p>通年 生徒会によるペットボトルキャップ、書き損じはがきの回収 → 海星学院に届け、ワクチン支援などに協力</p> <p>4/16 3年による通学路清掃 1・2年による通学路清掃(10/1)</p> <p>5月 花壇土おこし 6月 花壇の花苗植え(ボランティア部、特別支援学級)放課後等を活用</p> <p>6/1～6/25 11/1～11/26 生徒会生活向上週間 各委員会の取組実施</p> <p>6/1 コロナ感染症を理解するためのDVD学習(1年) 8/20 ウポポイ見学(1年)</p> <p>8/23 携帯安全教室(N T T) 11/2～11/27 生徒会生活向上週間 各委員会の取組実施</p> <p>11/26 「いのちをいただく」の朗読劇(チームいちばん星)による「命の授業」実施</p> <p>11/30 校内主張大会</p> <p>1年 10/19 地域探索(校区内事業所:オンライン)</p> <p>2年 7/21 市観光経済部による講演 11/19 認知症サポーター養成講座(けいあい) 12/17 誕生学講話(性教育)</p> <p>3年保育実習(鷺別保育所)→中止 ギター・マンドリン部 地域演奏 →中止</p>
登別中	<p>4/10 携帯・スマホ安全教室(KDDI)</p> <p>7/16 校下の清掃奉仕活動(町内クリーン作戦)による地域の環境美化</p> <p>7/20 「いじめを生まないために必要なことは」いじめ撲滅集会 ・わくわく広場祭典 吹奏楽部演奏 中止 通年 熊舞保存会による指導 ・JR登別駅で熊舞披露(外国人観光客向けに英語・中国語で紹介)→中止 ・地獄まつり参加 鬼みこし運行、熊舞披露、吹奏楽演奏実施 外国人観光客に向けて英語や中国語で紹介 →中止</p> <p>9/11 JICA講演会 講師: 小越みずゑさん(タンザニアで青年海外協力隊を経験)</p> <p>10/7 1年 洞爺湖有珠山ジオパーク見学学習 10/8 思春期教室(性教育講座)妊婦体験 ・3年 幼児とのふれあい体験(コロボックル)→中止 ・2年 職場体験 校区の事業所中心に2日間実施 →中止</p> <p>10/23 土曜授業 1年: 職業講話 2年: 認知症サポーター養成講座(地域包括支援センター) 3年: 薬物乱用防止教室</p> <p>11/17 2年 旅行的行事(宿泊研修)におけるウポポイ見学 12/2 2年 救急救命講習 12/7 3年 救急救命講習 12/18 熊舞引継ぎ式</p>
西陵中	<p>6/7 事前アンケート、ほっと実施 生徒会執行部に「いじめ防止」のためのスローガン考案依頼</p> <p>7/8 「いじめを考える会」について、全校協議会を開催。 アンケートのまとめ、スローガン、学級の意見を発表。</p> <p>7/10 全校道徳「いじめ撲滅宣言」行動宣言読み上げ、My Action Cardの記入</p> <p>6/2 1年自然体験学習ふおれすと鉱山(延期 8/20) 12/10 2年認知症サポーター養成講座 10/29 1年ウポポイ見学</p>

	<p>1年職場訪問～日本製鉄、室蘭工業大学 → 職場体験学習（登別漁港・工学院）</p> <p>2年思春期教室～誕生学講座 一般社団法人誕生学協会認定講師「思春期の健康」12/14</p> <p>3年思春期教室 3/7</p> <p>2/24 全市一斉ピンクシャツデーへの取組（生徒会執行部作成啓発動画視聴も含む）</p>
緑陽中	<p>ボランティア部による富岸子育てひろばでの幼児とのふれあい活動（毎週土曜日）→中止</p> <p>生徒会による自主的な活動の充実→自己肯定感の育成</p> <p>9/17 SDGs運動 各学級で「自分にできること」を各自で制作</p> <p>10/7 1年自然体験学習（ふおれすと鉱山） 7/8～13, 11/25～29 生活改善週間設定→中止</p> <p>11/22 2年思春期教室 7/22 交通安全活動→中止 10/11 2年職業体験→中止</p> <p>10/16・31, 11/15 3年保育実習→中止 1/19 2年認知症サポーター養成講座</p> <p>2学年対象に、ふるさと教育「北方領土」について学習「ジョバンニの島」映画鑑賞</p> <p>9/17 SDGs運動 各学級で「自分にできること」を各自で制作</p>

○「スキー授業」及び「温泉入浴体験」新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止

評価	<p>豊かな心を育む体験活動は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、実施できない取組も多かったが、主に総合的な学習の時間や道徳科の授業において、各校の目指す児童生徒像や指導目標のもと、本市の豊かな地域資源や人材を生かしながら、可能な限りで実体験を重視した実践を継続、発展させることができた。</p>
今後の方向性	<p>豊かな心の育成については、教育活動全般を通して、自尊感情や自己有用感を育むとともに、児童生徒に寄り添った授業を通して、誰もが自己の成長を実感し、達成感をもてるよう、取り組んでいく。</p> <p>また、ふるさとを愛し、登別の歴史・文化・自然に誇りをもてるよう、地域資源を生かした体験活動やキャリア教育の充実にも努めていく。</p>

項目	8 いじめ・不登校対策
点検内容	<p>いじめ・不登校対策については、「登別市いじめ防止基本方針」に基づき、学校・家庭・地域・関係機関と連携し、いじめの未然防止と早期発見・早期対応に努める。とりわけ、令和2年度に開設したメール相談について、より一層活用されるよう、相談方法の周知・徹底に努める。</p> <p>また、教職員研修資料「SOSの出し方に関する教育」を活用し、子どもたちが不安や悩みを抱えたとき、誰にどのように助けを求めればよいか、具体的で実践的な方法を学ぶことができるよう、学校の取組を支援する。</p>

取組状況

○いじめの起きない環境づくりや不登校に対する体制づくり

期日	内容
5月12日	<p>指導力向上研修① 指導部長・いじめ不登校担当教諭が参加</p> <p>講話「いじめの未然防止・早期発見のために私たちができることは何か」</p> <p>講師：登別市生徒指導担当教諭 縣 宏光 氏（鷺別中学校教諭）</p>
7月7日	<p>情報共有・事例研修① いじめ不登校担当教諭が参加</p>

9月 (動画配信)	指導力向上研修② 市内全教職員が視聴 講話「子どもファーストのために自分自身を振り返ろう」 講師：登別市教頭会事務局長 南 正彦 氏 (富岸小学校教頭)
10月 6日	情報共有・事例研修② いじめ不登校担当教諭が参加
10月 (動画配信)	教職員研修会・教育講演会 市内全教職員が視聴 ※登別市教育研究会と共催 講話「登校拒否から不登校へ」 講師：伊達身体障がい者福祉協会会長 木村正裕 氏 (元 伊達小学校長)
2月 (動画配信)	指導力向上研修③ 市内全教職員が視聴 講話「生徒指導の今日的課題」 講師：胆振教育局義務教育指導班指導主事 渡辺浩輔 氏 (生徒指導担当)
2月 9日	情報共有・事例研修③ いじめ不登校担当教諭が参加

- ・適応指導教室「スタディ広場」週一回 学校の申し出で協議し随時実施 7名通級(昨年度5名)
- ・体験教室「陶芸教室」(健千窯)水曜午前 学校の申し出で協議し随時実施 13名通級(昨年度4名)
- ・自然体験 8月6日 鷲別岳登山 中学生2名参加(昨年度は小学生2名参加)
- ・教育指導専門員による相談(電話・来室) 11件(昨年度6件)
- ・教育指導専門員による学校訪問 年3回(6月中旬・9月中旬、2月)
- ・不登校等支援関係者情報交流懇談会(S・C・S・S・W・心の教室相談員) コロナ禍のため中止
- ・保護者相談～希望により随時開催
- ・いじめ関係 アンケート調査(年2回) 取組状況調査(年2回) 対応状況調査(年3回)

○不登校出現件数・いじめ認知件数の推移

(単位：件数)

不登校出現件数の推移 (病欠以外の欠席累計30日以上)							いじめ認知件数の推移						
	H28	H29	H30	R1	R2	R3		H28	H29	H30	R1	R2	R3
小	1	2	1	1	3	6	小	14	3	11	17	21	34
中	18	19	21	29	26	19	中	7	11	5	7	6	19
計	19	21	22	30	29	25	計	21	14	16	24	27	53

○S・C・S・S・W・心の教室相談員の支援 ※()は昨年度

・S・C(スクールカウンセラー)の相談内容

相談者	不登校	いじめ	暴力	友人関係	教師との関係	親子関係	心身健康	発達障害	学業進路	合計
児童生徒	44(63)	0(0)	0(0)	14(5)	1(0)	5(3)	12(55)	5(13)	5(0)	86(139)
保護者	20(59)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2(0)	6(4)	1(13)	1(0)	30(76)
教職員	31(46)	0(0)	0(0)	5(6)	1(0)	8(2)	17(32)	3(13)	2(0)	67(99)
その他	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)

・S・S・W(スクールソーシャルワーカー)～2名配置 活動状況 全学校を訪問

活動時間	10:30～16:15
対 象	支援児童生徒 保育所0(0)人 小学校13(8) 中学校7(4)人 その他0(0)人
問 題 別	家庭環境9(4)件 不登校14(8)件 児童虐待1(1)件 発達障害3(2)件
訪問回数	学校55(72)件 関係機関11(12)件 家庭20(47)件

・心の教室相談員 相談件数 計84(148)件

勤務日数 鷲別中81(73)日・幌別中101(91)日・緑陽中80(88)日・西陵中80(80)日・登別中80(111)日

<p>評価</p>	<p>登別市いじめ・不登校等対策会議や教育指導専門員による学校訪問、アンケート調査等を通して、いじめ・不登校の実態把握に努めるとともに、具体的手だての共有を図り、福祉部局等の関係機関との連携により効果的な指導を展開した。</p> <p>SNS等のデジタルコンテンツの発展や、コロナ禍の生活により、インターネット等の依存症や、生活リズムの乱れなど児童生徒が抱える問題が多様化、複雑化していることから、心の教室相談員やスクールカウンセラー等への相談が増加傾向にある。</p> <p>また、利用者数は少ないものの、陶芸教室や適応指導教室では登校への意欲を高めるために、きめ細やかな支援を行うことができた。支援を必要とする児童生徒が効果的に利用することができるよう、引き続き学校・保護者への適切な働き掛けをする必要がある。</p>
<p>今後の方向性</p>	<p>いじめ・不登校対策については、「いじめ・不登校等対策会議」での事例研修や情報交流を通して、問題の未然防止や早期発見・早期対応に努めるとともに、スクールカウンセラーの配置拡充や各種相談体制の充実、さらには適応指導教室の充実などにより、個に応じた指導が適切に実施されるよう、努めていく。</p> <p>特に、「鬼っ子フォーラム」の開催や「ピンクシャツデー」への参画を通して、児童生徒がいじめ問題を主体的に考え、各校の児童会・生徒会活動の成果と課題を共有する機会を設けるなど、引き続き「みんなが通いたくなる学校づくり」の取組を推進していく。</p>

<p>項目</p>	<p>9 安全対策</p>
<p>点検内容</p>	<p>安全対策については、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、文部科学省が示す「学校の新しい生活様式」を踏まえ、学習や活動の内容を工夫しながら、可能な限り、授業や部活動、各種行事等の教育活動が継続されるよう支援していく。</p>

取組状況

○交通安全指導

小学校～入学前、学校説明会で通学路地図を保護者に手渡し、実際に保護者と歩くことを推奨。新学期に合わせ交通安全教室実施。入学後、教職員による登下校指導や自転車の実地指導実施。

中学校～新学期に合わせ交通安全教室実施。自転車通学を認めている学校ではパンフレット等作成し指導を重ね、安全意識啓発。

○ネットパトロールによる取組

道教委委託から情報提供に基づき、その状況に応じて全体あるいは当事者に指導し、保護者に協力を求めるもの。令和3年度の情報提供の数は0件。

○通学路の安全

・危険箇所の把握と改善～各校から通学路危険箇所の報告を受け、道路管理者など関係機関と通学路の合同点検を実施後、通学路安全推進協議会を開催し、合同点検箇所の結果の共有や危険箇所に対する対策メニューを決定し、一部の危険箇所について対策を実施した。

通学路安全プログラムに基づく危険箇所は26箇所であり、市HPや各校通学路安全マップ等で周知を図っている。

※ 協議会参加予定者：北海道開発局室蘭開発建設部・胆振総合振興局室蘭建設管理部・室蘭警察署交通課・登別市都市整備部・市民生活部・登別市教育委員会学校教育グループ

・地域や保護者の協力を得た見守り活動～町内会等地域ボランティアによる見守り活動のほか、保険会社や郵便局など、市が協定を結ぶ企業と情報共有をして進めた。

○防犯教室

幌別小	4月(4/19~4/23)安全指導週間 不審者対応等 室蘭警察署よりビデオ借用、各学級で視聴と指導 12/3 非行防止教室(5・6年 講師:室蘭警察署) 携帯電話を使った犯罪の現状、トラブルに巻き込まれないために気を付けるべきことについて理解を深めることができた。
幌西小	7/16 不審者対応教室(1~3年、4~6年の2回実施) 講師:室蘭警察署生活安全係
鷺別小	8/20 不審者対応訓練(全教職員) 12/14~16 全学年対象・放送による非行防止教室(非行防犯に関する講話)講師:室蘭警察署員
登別小	11/6 携帯スマホ安全な利用について(全学年) 2/18 不審者対応訓練(全学年) ※隔年実施につき4年度は行わない
富岸小	5/8 安全教室(低・高に分けて実施)
幌東小	5/26 不審者対応避難訓練
若草小	10/22 不審者対策避難訓練 12/23 未成年者喫煙防止教室(6年)
青葉小	5/25 防犯教室(4~6年生) 6/18 不審者対応訓練
幌別中	【再掲】7/19非行防止教室(喫煙防止等について 講座〔全学年〕講師:室蘭警察署員)
鷺別中	8/23 1年携帯安全教室(N T T) 3/7 3年薬物乱用防止教室(室蘭警察署)
登別中	4/10 携帯スマホ安全教室(講師:KDDI社員) 10/23 3年薬物乱用防止教室
西陵中	11/26 薬物乱用防止教室(3年学年道徳)
緑陽中	11/6 防犯教室、※ビデオ視聴で実施 3/7 3年 薬物乱用防止教室

○情報モラル教育~インターネット安全教室

幌別小	11/11 スマートフォンや携帯電話の利用方法・マナーについて学ぶ。 対象 4・5・6年児童、全保護者 講師:携帯会社契約社員(KDDI)
幌西小	携帯やスマホの安全な利用法やネットトラブルなどについて、担任から指導(高学年)。
鷺別小	12/16 オンラインゲームトラブルに関する講話(全学年) 講師:室蘭警察署員
登別小	11/6 携帯スマホ安全な利用について(全学年) 外部講師:携帯電話会社職員 実際の被害事例に基づき、危険性と安全な使用の仕方についての講話。
富岸小	7/13~7/21, 12/15~12/21 「ケータイ・スマホ3つのルール」強調ウィーク 11/6 メディアトラブル講座(講師:子どもとメディア北海道)
幌東小	7/20 4年生以上対象 ネット安全教室
若草小	2/14 情報モラル教育オンライン出前授業(LINE 5・6年) 2/25 携帯・スマホ安全教室(ドコモ 3・4年)
青葉小	5/25 防犯教室「スマートフォン・ネットトラブル等」(4~6年生) 室蘭警察署
幌別中	7/19 非行防止教室(携帯・スマホ等について 講座〔全学年〕講師:室蘭警察署員) 12/20 SNS・メディアとの望ましいかかわり方講演(全学年) 講師:NPO北海道子どもとメディア 中谷 通恵氏
鷺別中	6/9 スクールカウンセラーによるメンタルヘルス授業(3年) 8/23 1年携帯安全教室(N T T) 12/18 スマホ携帯の危険性について 新入生保護者説明会にて新入生保護者対象(室蘭警察署員)
登別中	4/10 携帯スマホ安全教室(講師:KDDI社員)
西陵中	12/16 スマホ安全教室(全学年対象)
緑陽中	11/6 防犯教室、※ビデオ視聴で実施

○インターネット使用に関わる指導や啓発の取組

- ・小4から中3まで、ゲーム機やスマートフォン等インターネット機器に関する調査を年1回(5～6月)実施
 ※「自分専用のインターネットが使用できる機器の所有率」 令和3年5月調査結果 ※()は昨年度
 小4 75.5% 小5 81.3% 小6 85.8% 中1 88.1% 中2 93.5% 中3 93.0%
 (小4 76.3% 小5 82.8% 小6 86.4% 中1 91.5% 中2 92.2% 中3 94.6%)
 ※「スマホ所持率」 令和3年5月調査結果 ※()は昨年度
 小4 23.2% 小5 28.0% 小6 41.8% 中1 71.0% 中2 75.7% 中3 75.7%
 (小4 19.7% 小5 29.1% 小6 42.1% 中1 56.3% 中2 64.7% 中3 77.8%)
 ※「スマホ・携帯の1日の使用時間が3時間以上の割合」 令和3年5月調査結果 ※()は昨年度
 小4 15.8% 小5 16.2% 小6 15.5% 中1 20.6% 中2 19.5% 中3 19.1%
 (小4 12.6% 小5 13.4% 小6 21.3% 中1 15.8% 中2 14.7% 中3 26.3%)
- ・各学校では「ケータイ・スマホ3つのルール」に基づき、児童生徒への指導や保護者への啓発を強化。学校運営協議会で協議する場面も多く見られた。
- ・情報モラル教育に係る教職員及び「保護者リーフレット」の作成・配付(令和3年6月19日)
- ・情報モラル啓発資料の作成・保護者配付(令和3年7月から令和4年3月まで、再発防止策を受けて毎月1回発行)

○避難訓練

学校名	取組内容
幌別小	避難訓練(地震・火災) 5/11 教室から避難 7/12 休み時間の避難 集団下校訓練 学期1回 校外班ごとによる下校訓練 8/28 幌東小・幌別中合同で津波対策避難訓練実施 コロナ禍により合同開催を中止。単独開催で幌中グラウンドへ避難。
幌西小	5/11 火災想定避難訓練 10/2 津波想定避難訓練→悪天候のため、避難場所を変更(望洋公園入口→校舎3階)
鷺別小	小中合同避難訓練(地震による津波想定)→中止 6/11 地震避難訓練(学年ごと避難経路確認) 9/6 北海道シェイクアウトに参加(胆振防災教育デー) 10/6 火災避難訓練 講師:消防署職員 津波避難訓練(全校児童・高台避難経路確認)
登別小	4/28 火災避難訓練 7/14 立ち止まり訓練(中休み) 11/5 地震津波避難訓練(高台避難:時代村社宅まで)
富岸小	4/16 地震・火災時の避難訓練 6/22 休み時間を想定した地震・火災時の避難訓練 9/11 小中一貫・地域連携避難訓練(津波避難) 亀田公園まで避難、富岸町内会による避難誘導協力→中止 3校合同の一日防災教室
幌東小	4/28 火災避難訓練 5/26 不審者対応避難訓練 8/28 鉄南連合町内会・幌別中と連携した地区避難訓練を実施 →中止 8/28 幌東小・幌小・幌別中合同で津波対策避難訓練を実施 →学校ごとに実施し、幌別中学校へ避難 10/16 地震・津波を想定した避難訓練、幌中まで避難 2/5 津波を想定した避難訓練、工学院女子寮ドミトリーまで避難
若草小	5/17 火災想定避難訓練(避難経路確認) 9/1 北海道シェイクアウト(地震想定避難訓練) 9/4 地震想定避難訓練 9/6 胆振防災教育デー

青葉小	5/18 避難訓練(火災想定) 9/11 避難訓練(地震・津波想定)…「地域合同」 9/11 防災教室(4～6年生)
幌別中	5/26 通報訓練及び火災を想定した紙上による避難訓練を実施 8/28 中学校区3校合同防災学習 (2小学校～避難訓練、幌中～避難訓練、避難所設営、市担当者講話)
鷺別中	6/25 避難訓練(火災) 9/11 避難訓練(津波：雨天のため被災者の教頭から東胆振地震について講話)
登別中	5/6 火災を想定した避難訓練 10/11 地震津波を想定した高台避難訓練
西陵中	8/17 安全研修(災害時避難器具救助袋の使い方等) 11/5 緊急地震速報訓練
緑陽中	5/7 火災避難訓練 9/11 津波避難訓練 → 津波からの避難についてzoomで学習

評価	<p>防犯教室は、近年の不審者通報や実際の被害の増加に伴い、各学校が警察署等の協力を得て、身を守るための具体策を講話や訓練によって学ぶ機会を設定することができた。</p> <p>携帯・スマホの所持率増加を受け、生活リズムの乱れや人間関係のトラブルに対応するため、携帯電話会社やNPO法人の協力を得て、情報モラルに関する教室・授業を行った。</p> <p>通学路の安全については、通学路安全推進協議会を開催、報告のあった危険箇所について、関係部署に情報提供した。</p>
今後の方向性	<p>安全対策・安全指導については、学校が実施する避難訓練や一日防災教室などを通して、災害等が発生した場合に児童生徒自らが適切に対応することができるよう支援していく。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症対策については、国や北海道の通知に準拠して本市が作成した基本対応マニュアル等に基づき、登別市校長会と協議の上、感染状況に対応しながら、感染症の拡大防止と円滑な教育活動の両立に努めていく。</p>

項目	10 体力の向上
点検内容	<p>体力の向上については、コロナ禍のため少年団活動や部活動が制限されているので、スポーツ指導員の派遣や体育科授業の工夫・改善を通して、児童生徒の健康・体力づくりの取組を促す。</p>

取組状況

○令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果と分析(実施時期：令和3年4～7月)

※ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。

小学校 5年男子

	実施数	身長 (cm)	体重 (kg)	握力 (kg)	上体 起こし (回)	長座体 前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトル ラン (回)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ソフト ボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
全国	511,664	139.3	35.1	16.2	18.9	33.5	40.4	46.8	9.5	151.4	20.6	52.5
北海道	12,193	139.7	36.7	17.1	18.8	33.5	41.6	44.7	9.7	151.5	21.2	52.5
R3 登別	168	139.6	36.5	15.6	18.4	35.1	42.4	50.4	9.8	150.4	20.3	52.8
R1 登別	184	138.6	35.0	16.7	19.9	37.2	44.8	53.1	9.6	154.9	21.6	55.1
H30 登別	200	139.1	34.7	17.1	21.5	37.8	43.1	55.7	9.6	159.0	22.6	56.4

小学校 5年女子

	実施数	身長 (cm)	体重 (kg)	握力 (kg)	上体 起こし (回)	長座体 前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトル ラン (回)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ソフト ボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
全国	489,276	140.9	34.9	16.1	18.1	37.9	38.7	38.2	9.6	145.2	13.3	54.6
北海道	11,709	141.4	36.1	16.9	17.9	37.8	39.9	36.4	9.9	145.4	13.8	54.6
R3 登別	159	142.2	36.5	16.7	17.8	40.3	41.2	41.1	9.8	146.7	14.8	56.1
R1 登別	186	140.3	35.2	16.3	19.0	41.0	42.1	39.5	9.8	146.7	13.8	56.3
H30 登別	182	140.6	34.8	16.8	20.1	42.9	40.8	43.1	9.8	153.3	15.4	58.4

中学校 2年男子

	実施数	身長 (cm)	体重 (kg)	握力 (kg)	上体 起こし (回)	長座体 前屈 (cm)	反復 横とび (点)	持久走 (秒)	20m シャトル ラン (回)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ソフト ボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
全国	458,336	160.6	49.7	28.8	26.0	43.7	51.2	406.4	79.9	8.0	196.4	20.3	41.2
北海道	11,758	161.5	51.4	29.3	25.6	42.5	50.2	426.1	75.1	8.2	194.9	19.9	40.0
R3 登別	167	161.4	50.0	27.9	26.4	43.4	51.1	445.5	82.8	8.1	200.7	20.3	41.0
R1 登別	163	161.5	50.6	29.2	24.8	44.5	51.1	424.3	77.1	8.4	198.5	19.2	39.9
H30 登別	167	160.5	49.0	28.7	26.5	45.8	51.4	382.3	88.0	8.3	196.4	19.2	42.1

中学校 2年女子

	実施数	身長 (cm)	体重 (kg)	握力 (kg)	上体 起こし (回)	長座体 前屈 (cm)	反復 横とび (点)	持久走 (秒)	20m シャトル ラン (回)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ソフト ボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
全国	434,297	154.9	47.0	23.4	22.3	46.2	46.3	297.6	54.2	8.9	168.2	12.7	48.6
北海道	11,233	155.1	47.6	23.2	21.3	44.8	44.9	313.4	48.7	9.1	163.1	12.3	45.8
R3 登別	156	155.3	47.9	22.5	20.5	46.8	44.7	317.9	51.9	9.0	168.1	12.7	46.7
R1 登別	139	155.3	47.3	23.4	20.1	46.9	45.0	291.3	57.2	9.2	170.5	12.6	47.4
H30 登別	153	155.7	47.5	23.3	20.7	47.7	46.0	281.5	56.6	9.1	167.9	12.3	47.8

<小学校男子>

- ・体力合計点は、全国平均とほぼ同程度。
- ・反復横跳びは全国平均を上回り、「長座体前屈」「20mシャトルラン」は全国平均をやや上回っている。
「握力」は全国平均をやや下回り、「50m走」は下回っている。
- ・力強さを示す「握力」が全国平均をやや下回っていることから、筋力を向上させる取組を推進していく必要がある。また、疾走能力を要素とする「50m走」が全国平均を下回っていることから、走力を上げる取組を推進する必要がある。

<小学校女子>

- ・体力合計点は、全国平均をやや上回っている。
- ・「長座体前屈」「反復横跳び」「ソフトボール投げ」は全国平均を上回り、「握力」「20mシャトルラン」が全国平均をやや上回っている。一方、「50m走」が全国平均をやや下回っている。
- ・疾走能力を要素とする「50m走」が全国平均をやや下回っていることから、走力を上げる取組を充実させる必要がある。

<中学校男子>

- ・体力合計点は、全国平均とほぼ同程度。
- ・「20mシャトルラン」「立ち幅跳び」は全国平均をやや上回っている。「握力」は全国平均をやや下回り、「持久走」は下回っている。
- ・全身持久力を要素とする「持久走」が全国平均を下回り、力強さを示す「握力」が全国平均をやや下回っていることから、改善に向けた取組を推進する必要がある。

<中学校女子>

- ・体力合計点は、全国平均をやや下回っている。
- ・「立ち幅跳び」など3項目は全国平均とほぼ同程度であるが、「体力合計点」をはじめ4項目がやや下回り、「上体起こし」をはじめ3種目が下回っている。
- ・全身持久力を要素とする「持久走」や敏捷性を要素とする「反復横跳び」が全国平均を下回っていることから、改善に向けた取組を推進する必要がある。

○体力向上一校一実践内容

幌別小	短縄 記録カードをもとに練習(全学年、通年) クラス選抜ぞうきんがけりレー⇒児童会が企画したが、コロナ禍により中止 長縄記録会(全学年 7・12月)全校で記録会実施 →中止 幌小っ子タイム(全学年 6～7月、10～11月) 学級ごとに目標を設定し長縄に挑戦 →中止 胆振教育局いぶりんピック(12～2月)ぞうきんがけトライアル、なわとびトライ参加→中止
幌西小	短縄による日常的な体力づくり(全学年、通年) 11/27 短縄記録会(全学年)
鷲別小	4/20～30 マイペースランニング(全学年)グラウンドにコース設定。走った周数を記録→中止 12/14～17 縄跳び記録会を2学年ごと実施、年間通して「がんばりカード」を活用し意欲化
登別小	なわとび(全学年、通年)自己目標を設定 体力づくりの時間に取り組む。 前期：90秒間持久跳び 後期：長縄跳び ※どさんこ元気アップチャレンジ登録 →中止 長縄発表会(全学年 12月)→中止 全校遊び(2月)→中止 すもう(全学年、5～9月)体育の時間に実施、夏・秋場所を設定する。→中止 マラソン(全学年 8～9月)自己目標を設定、体力づくりの時間に取り組む。→中止 スキー(全学年 1～2月) 裏山(主に1・2年使用) スキー場(1・2年1回、他2回) →中止
富岸小	なわとび道場(全学年、通年)毎朝のなわとび実施 短縄大会(全学年、6月) グラウンドにドッジボールコート常設 マイペースマラソン(全学年、9月)→中止 長縄大会(全学年、12月) とんけし運動広場(おにスポ主催)
幌東小	全校児童「新体力テスト」の実施 校内体力づくりの実施～短縄跳び、全校表現(よさこい) 体力強化週間(持久走への取組) 10/15 全校持久走記録会 朝の体力づくり 週1回 金曜日に実施
若草小	なわとび 休み時間に「なわとびカード」の名人を目指して取り組む(6月～1月) 「短縄記録会」(2～3月)の開催
青葉小	「新体力テスト」実施(全学年) 短縄跳び(全学年、6～2月)学級ごとに取り組む。
幌別中	ダンス指導(全学年、2学期)学年単位で発表 「胆振管内どさんこ元気アップチャレンジ(いぶりんピック)」へ参加 保体専門委員会による球技交流会(バスケットボール・バレーボール)3学期に実施
鷲別中	長縄跳び(全学年、12月)体育科で実施。制限時間内で跳んだ回数を学年内で競う 2/25 1・2年 ダンス講習会(プロダンサー)

登別中	導入5分間アップ(全学年・通年)授業導入時筋トレ、コーディネーショントレーニング実施 体力アップイベント(全学年)体幹トレーニングなど生徒による企画と実行 10/12・19 ダンス指導(全学年)インストラクターによる指導
西陵中	保健体育の授業において毎時間必須の基礎体力作り運動を実施 (年間 1,050回以上を超える体力運動実施)
緑陽中	11月 ダンス指導 クラス単位ビデオで発表

○体育コーディネーターの活用による体育授業及び体力向上の支援(子ども健康・体力改善事業)

委託先 NPO法人「おにスポ」

市内全小学校にスポーツ指導員を1校あたり授業で年間209.25時間以上、放課後の運動教室で年間24時間以上開催。

- 実施内容
- ①「体育の授業」質向上支援～柔軟性・俊敏性を養う動きを取り入れた準備運動の導入。
 - ②実技の手本を見せ、児童への動かし方やコツ、練習のポイントのアドバイスを実施。
 - ③準備運動で、単位時間の中で行う運動に必要な筋肉を使う体操を導入。
 - ④体力向上を図る取組の支援～おにごっこや球技を取り入れた遊びへの参加について、積極的に児童に働き掛けることで、運動への意欲の向上を図るとともに、運動不足の解消、持久力、瞬発力を高められるような取組を実施。
 - ⑤新体力テストの実施に関する指導補助。

実績 ①授業実施時間

鷺別小	若草小	富岸小	青葉小	幌別小	幌東小	幌西小	登別小
217	209.25	224.75	209.25	193.75	209.25	209.25	240.25

②放課後の運動教室開催時間

鷺別小	若草小	富岸小	青葉小	幌別小	幌東小	幌西小	青葉小
18	18	18	18	18	18	16	18

※ 放課後の運動教室開催については、新型コロナウイルス感染症の影響により、全ての小学校で予定する開催時間に満たなかった。

○栄養教諭による食育・給食指導

・勤務校での指導状況

幌別小 ※ 給食指導～毎日学級訪問

- 1年 10/21 給食ができるまでを知って食べ物を大切にしよう 11/30 食事のマナーをおぼえよう
- 2年 9/3 何でも食べよう元気に大きくなろう 9/24 おはし名人になろう
- 3年 12/15・12/16 すききらいをしないで食べよう 2/22 野菜博士になろう
- 4年 7/1 朝ごはんのよさ、働きを見直そう 12/24 バランスを考えて食べよう
- 5年 1/21 生活習慣を見直そう 11/19 給食の中の五大栄養素を見つけよう
- 6年 2/15 朝ごはんをパワーアップさせよう 3/4 砂糖と清涼飲料水について知ろう

幌別東小 ※ 給食指導～毎日学級訪問 食育掲示の充実～年間通して児童が学べる空間の確保

- 1年 6/15 おはし使い名人になろう
- 2年 7/14 おはし使い名人になろう
- 3年 7/21 朝ごはんを食べよう
- 4年 9/21 食べものの3つのはたらきを知ろう
- 5年 10/4 五大栄養素について知ろう 11/5 ご飯と味噌汁をつくろう

- 6年 6/25 生活習慣病について考えよう 10/14 できることを増やしてクッキング
12/8 満点給食メニューを考えよう
- 1・2年 12/14 ミルク教室 乳牛について (明治食育教室)
- 3・4年 10/12 しょうゆもの知り教室 (日本醤油協会)
- 5・6年 12/14 ヨーグルトのひみつ (明治食育教室)

・派遣先での指導状況

- 幌西小 7/19 2年学級活動 (楽しい食事) 9/14 4年学級活動 (食育指導)
- 若草小 10/21 1年特別活動 (給食を楽しく食べよう) 11/16 5年特別活動 (望ましい食生活)
- 登別小 11/1 5年 (栄養素の働きについて) 11/2 2年 (給食の主な栄養について)
- 青葉小 10/13 2年学級活動 (何でも食べよう) 11/10 4年学級活動 (食べ物の3つの働き)
- 鷺別小 9/8 3年 (好き嫌いをしないで食べよう) 10/25 4年 (丈夫な身体をつくろう)
- 富岸小 7/20 6年 (満点給食メニューを考えよう) 8/27 2年 (何でも食べよう)

○薬物乱用防止教室

幌別小	12/3 5・6年 危険ドラッグも含めた非行の実態について室蘭警察署員による講話の予定だったが、スマホの危険性が中心になった。担任から各学級で薬物について追加で指導。
幌西小	薬物乱用防止に関する資料等を活用し学級担任が保健の時間に指導
鷺別小	6年 シンナーや麻薬の恐ろしさについて、担任による指導 (保健の授業で実施)
登別小	薬物乱用防止に関する資料等を活用し学級担任が保健の時間に指導
富岸小	2/10 6年薬物乱用防止教室 室蘭警察署員から薬の恐ろしさと使用は絶対にいけない旨の講話(喫煙も含む)
幌東小	2/15 6年 薬物乱用防止教室
若草小	12/21 薬物乱用防止教室(6年) 講師：室蘭警察署員
青葉小	7/20 3年 防犯教室(薬物の恐ろしさと、犯罪との関係について) 講師：室蘭警察署員
幌別中	12月 薬物乱用防止講座～外部講師を招いての講座は行わず、保健体育の授業内で実施
鷺別中	3/7 3年 薬物乱用防止教室(室蘭警察署)
登別中	10/23 3年薬物乱用防止教室
西陵中	11/26 3年 室蘭警察署員による、薬物全般に関する講話
緑陽中	3/7 3年 薬物乱用防止教室

評価	<p>全国体力・運動能力、運動習慣等調査は、小学校男子・女子、中学校男子で全国平均とほぼ同程度以上であった。一方で、中学校女子は全国平均をやや下回る結果であったが、体力合計点は、令和元年度の得点を0.9ポイント上回っており、改善の傾向が見られ、全国平均との差は確実に縮まってきている。</p> <p>これは、全小学校における体育コーディネーター派遣事業と関連した体育科の授業改善はもとより、一校一実践の取組に加えて新体力テストに全学年で取り組むなど、学校をあげて体力の向上に取り組む気運を高まってきていることも大きな要因であると考えられることから、今後の全国体力・運動能力調査の結果が全国水準を上回ることが期待できる。</p>
今後の方向性	<p>健康・体力づくりについては、社会環境や生活様式の変化、コロナ禍の影響などもあり、児童生徒の運動機会の減少や体力の低下が生じているので、スポーツ指導員の派遣などを通して、学校における体育指導の充実や運動の習慣化を図っていく。</p> <p>また、「ノーゲームデー」の啓発や「登別市ケータイ・スマホ3つのルール」の周知徹底を通して、家庭における規則正しい生活習慣の定着を促していく。</p>

項目	11 学校の適正配置
点検内容	学校の適正配置については、「登別市学校適正配置基本方針」で示した計画期間の前期が終了したので、適正規模が課題となっている学校区においては、各地区の学校運営協議会や意見交換会で挙げられた多様な意見を踏まえ、「地区別検討委員会」を設置し、学校の統廃合に向けた取組を推進する。

取組状況

令和3年8月、「登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～」(※)を新たに策定し、学校の適正配置に向け取組を進めた。

令和3年度においては、第1期(令和3～7年度)に他校との統合が想定された幌別東小学校及び登別中学校の適正配置に関し具体的取組を進めたが、そうした中、各校区においては、保護者や地域住民有志によって地区別検討委員会が組織され、各校の今後のあり方や統合の是非に関し検討が進められた。

その結果、幌別東小学校区の地区別検討委員会においては、幌別小学校との統合を容認する決定がなされたことなどから、令和4年3月開催の教育委員会において、幌別東小学校を幌別小学校に統合する方針を正式に決定した。

また、登別中学校区の地区別検討委員会においては、引き続き同校の今後のあり方や幌別中学校との統合の是非に関し議論が交わされているところであり、教育委員会としても、その動向を見守りながら検討を進めているところである。

※ 「登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～」は、令和3年度から令和37年度までの35年間を3つの期間に分け、各期の児童・生徒数の推計等に基づき、それぞれの期間における学校配置の想定を示す。このうち、令和3年度～7年度を期間とする第1期においては、幌別東小学校を幌別小学校に、登別中学校を幌別中学校に統合することを想定した。

【学校の適正配置に関する経緯】

令和3年8月 「登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～」策定

令和3年10月 幌別東小学校区及び登別中学校区で地区別検討委員会設置

(幌別東小学校区における地区別検討委員会)

令和3年10月7日 第1回地区別検討委員会

令和3年10月29日 第2回地区別検討委員会

令和3年11月26日 第3回地区別検討委員会

令和3年12月2日 幌別東小学校の未来に関する説明会・意見交換会

(登別市教育委員会・地区別検討委員会共催)

令和3年12月17日 第4回地区別検討委員会

令和4年1月21日 第5回地区別検討委員会

※第5回会議において、幌別小学校との統合を容認する決定がなされた。

(登別中学校区における地区別検討委員会)

令和3年10月6日 第1回地区別検討委員会

令和3年10月27日 第2回地区別検討委員会

令和3年12月16日 登別中学校の未来を考える説明会・意見交換会

(登別市教育委員会・地区別検討委員会共催)

- 令和4年3月22日 登別中学校在校生グループセッション
(登別市教育委員会・地区別検討委員会共催)
- 令和4年3月23日 第3回地区別検討委員会
※第3回会議において、地区別検討委員会の下に教育環境部会とまちづくり部会を設けることが決定され、両部会において、統合の是非に関し検討していくことが決定された。
- 令和4年2月 幌別東小学校の統合に関する方針(案)策定
同案に関するパブリックコメント実施(令和4年2月10日～3月13日)
- 令和4年3月 幌別東小学校の統合に関する方針決定
※これにより、令和7年4月1日に、幌別東小学校を幌別小学校に統合することを正式に決定。

評価	<p>基本方針策定時の想定を上回る速さで児童・生徒数が減少し、市内の複数の学校で、基本方針に掲げた規模の目安を満たさない状況が生じていることなどを踏まえ、「登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のランドデザイン～」を新たに策定し、学校の適正配置に向け具体的な取組を進めることとした。</p> <p>まずは、ランドデザイン第1期で他校との統合が想定された幌別東小学校及び登別中学校で具体的な取組に着手したが、各校区で組織された地区別検討委員会での検討経過を踏まえ、保護者や地域の理解を前提に取組を進めた。</p> <p>その結果、令和7年4月1日に、幌別東小学校を幌別小学校に統合することを正式に決定したほか、登別中学校についても、引き続き幌別中学校との統合の是非に関し検討を進めているところである。</p> <p>今後も、地域や保護者の思いに寄り添いながら、子どもたちにとって良好な教育環境を整備するため、学校の適正配置に向けた取組を進める。</p>
今後の方向性	<p>幌別東小学校区においては、令和7年4月に予定される幌別小学校との統合に向けて、両校関係者の参加により新たに学校統合委員会を設置し、統合に向けた環境整備に関し具体的な検討を進める。</p> <p>また、登別中学校区においては、引き続き地区別検討委員会における議論の経過を見守り、その動向等も踏まえ、概ね本年度中には、幌別中学校との統合に関し一定の方向性を決定する。</p>

項目	12 特別支援教育
点検内容	特別支援教育については、登別市教育支援委員会などによる教育相談の充実や関係機関との連携により、特別な支援や合理的な配慮を必要とする児童生徒が幼児期から一貫した支援を受けられるよう、体制の整備に努めていく。

取組状況

○市内小中学校の特別支援学級の状況 ()内は前年度

	小学校	中学校	担当教員	39名(43名)
知的障害学級	8学級30名(8学級25名)	5学級11名(5学級13名)	介助員	9名(9名)
自閉・情緒学級	10学級44名(8学級36名)	5学級13名(5学級14名)	学習支援補助員	20名(20名)
肢体不自由学級	1学級1名(2学級2名)	設置なし	担当教員はハーフ勤務6人含む	

○登別市教育支援委員会の取組

①就学前からの教育相談や就学指導

	担 当	内 容
パートナーティーチャー 派遣事業	学教G	特別支援学校教員による小中学校の発達障がいを含む障害のある 児童生徒に対する指導・支援 活用校～青小1名 若小3名 幌西小3名 幌東小4名 登別中6名
教育支援委員会 9月～12月	学教G	適正就学に向けた取組 ・委員の幼稚園・保育所訪問観察・検査、担当者との懇談 ・諮問：11/8 答申：12/13（全委員出席） ・総合検査：11/12 検討審査：12/1～12/4
教育支援委員の学校訪問	学教G・対象校	9～11月実施
1日体験入学	全小学校	1～2月各学校で実施予定であったが、在校児童の新型コロナウイルス 感染症の感染拡大のため中止とした学校もあり
新入学児童合同引き継ぎ	幼・保・小	3/28.29 幼保・小実務担当者会議(合同引き継ぎ会)

②その後の一貫した支援

・各種研修会

【夏季研修会】

日 時:令和3年8月6日(金) 9:30～10:30 場 所:若草小学校 参加者:26名

内 容:「発達検査(KABC)の解釈と活用」

講 師:北海道教育庁胆振教育局 教育支援課義務教育班 指導主事 油川 智史 氏

【冬季研修会】

日 時:令和4年1月7日(金) 9:00～10:30 場 所:若草小学校 参加者:23名

内 容:「学習と体づくり」

講 師:伊達市児童発達支援・放課後等デイサービス まあぶる 北原 辰也 氏

・特別支援学級作品展 10/22(金)～10/28(木) 主催者:登別市特別支援教育振興協議会

目的:作品を通じた交流により間接的に思いを感じたり伝えようとしたりする態度を育成し、コミュニケーション能力の向上を図る。

・関係部局との連携

○5歳児相談(保健福祉部健康推進グループ) 年7回

子供の状況を早期から把握し、学教教育にスムーズにつながるよう、市内の小・中学校での特別支援の状況の説明や子供の様子に不安のある保護者との教育相談を実施する。

5月19日 初就学に向けた説明会11名 教育相談2名

7月21日 初就学に向けた説明会13名 教育相談1名

9月1日 初就学に向けた説明会16名 教育相談2名

11月17日 初就学に向けた説明会7名 教育相談2名

12月20日 初就学に向けた説明会16名 教育相談2名

1月28日 初就学に向けた説明会10名 教育相談1名

2月16日 初就学に向けた説明会13名 教育相談1名

○就学説明会(保健福祉障がい福祉グループ)

次年度就学されるお子さんがいる家庭を対象に「就学の流れを知ろう」をテーマに実施する。

日時:令和3年7月27日(火) 鉄南ふれあいセンター 10:00～12:30

講話参加者:16名 個人懇談:8名

<p>評価</p>	<p>教育支援推進専門員を中心に、各学校の特別支援教育コーディネーターや関係期間、保護者とのきめ細かな連携に努め、教育相談や就学指導を適切に実施し、一人一人の教育的ニーズに応じた教育の充実を図るとともに、就学後も必要に応じて進めることができた。特に、就学指導（主に新入学）に関わる内容は、児童生徒の学習環境を整えるうえで重要であることからできるだけ丁寧に対応することに心掛けた。</p> <p>学校における支援ファイル「ふくはうち」の利用促進のほか、保健福祉部健康推進グループや障がい福祉グループが行う5・6歳児を対象とした相談の機会に、特別支援教育の説明や個別の教育相談を実施し、教育と福祉が連携することで、一貫した子育て環境を目指した取組を推進した。</p> <p>言語障害通級指導教室（幌別小・鷺別小）では、設置されている幼児部との連携を深め、児童がかかえる困難の改善に向けた取組を一貫して進めることができた。</p>
<p>今後の方向性</p>	<p>特別支援教育については、引き続き各学校の特別支援教育コーディネーターを中心に、義務教育9年間の連続性に配慮した支援に努めるとともに、のぞみ園や幼稚園・保育所、関係機関等と連携して、幼少期からのきめ細かい支援や就学相談の充実に努める。</p>

※登別市支援ファイル「ふくはうち」とは…障がいのある方や発達に心配のある方の情報を保健・福祉・医療・教育・就労などの関係機関で共有することで、地域の中で一貫した継続的な支援が受けられるよう、本市保健福祉部障がい福祉グループが作成したもの。

<p>項目</p>	<p>13 社会教育</p>
<p>点検内容</p>	<p>市民一人一人が主体的に学び、人と人とのつながりを深め、心豊かに暮らすことができる環境づくりが重要である。そのため、今年度からスタートする「第6次社会教育中期計画」に基づき、多様な主体の協働とICTの活用を図りながら、各種事業や施策に取り組む。</p>

取組状況

○「第6次社会教育中期計画」に基づいた主な各種施策

- ・人づくり①青少年世代～これからのまちづくりを担う青少年の健全な育成と地域教育力の向上

<p>地域学校協働本部事業</p>	<p>各中学校区</p>	<p>コーディネーターを配置し体験活動を実施</p>
<p>少年の主張大会</p>	<p>市民会館</p>	<p>中学生が日常生活での体験や日ごろ考えていること等について発表を行う少年の主張大会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の観点から、胆振地区大会及び全道大会のビデオ審査形式に合わせてビデオ審査形式とした。</p>
<p>放課後子ども教室</p>	<p>鷺小・東小</p>	<p>放課後に子どもが安心して活動できる居場所づくり ひなわしメート＝127名登録 はまなすメート＝23名登録</p>
<p>成人祭</p>	<p>市民会館</p>	<p>市と実行委員による企画、運営 出席者334/557名 R4. 1. 9</p>

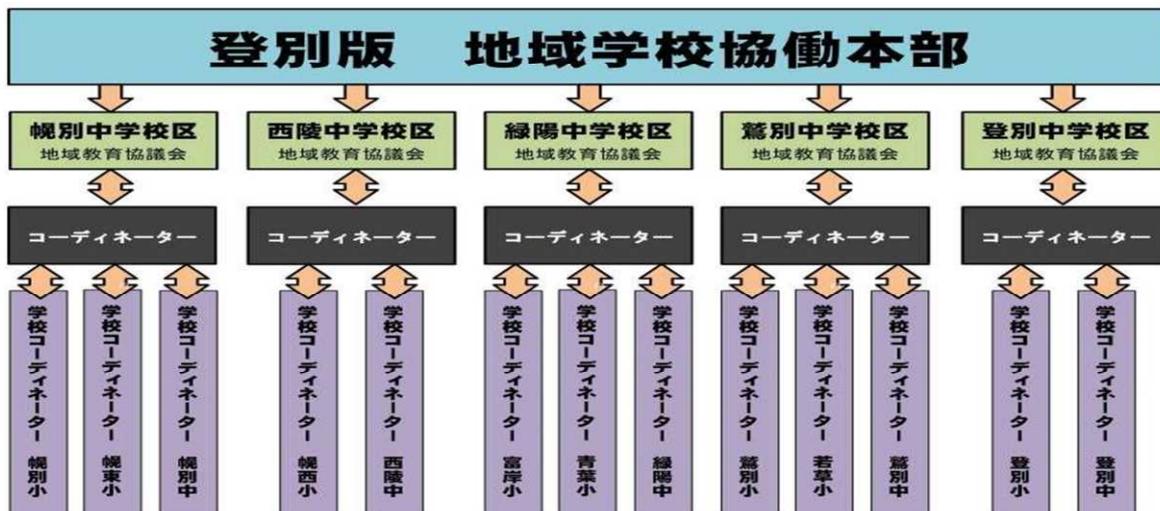
- ・人づくり②成人世代～学習意欲の向上の奨励と地域活動の担い手の発掘・育成

- ・人づくり③高齢者世代～学習機会の充実と地域の模範となる高齢者の活動による地域教育力の向上

<p>登別ときめき大学</p>	<p>63名登録</p>	<p>事務局主催の基礎コースと各団体の講座を連携コースとした生涯学習事業。基礎コース7講座（当初は8講座を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、最終講座を中止）。</p>
-----------------	--------------	--

市民マイプラン講座	市内各所	サークル等が企画した講座や学習会を支援する。 利用団体=4団体（文化・福祉団体等）
-----------	------	--

・「学習環境の整備」 生涯学習人材バンク 登録者（個人：45名、団体：37団体、仲間募集：41団体）



○「学校支援地域本部」「地域学校協働本部」への発展について

- ・これまで「学校支援地域本部」として推進してきた体制を基盤とし、令和元年度より「地域学校協働本部」へと移行し、令和元年度から3年間を目途に「学校コーディネーター」を各学校に1名配置することを目指し、段階的に体制整備を進める。

評価	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止を余儀なくされた事業もあったが、市民一人ひとりが生きがいを持って自分らしさを追い求めることができる生涯学習社会の実現に向け、人づくりという観点から各世代に応じた事業を展開することができた。</p> <p>また、「学校支援地域本部」を「地域学校協働本部」へ改組し、5つの中学校区に配置されているコーディネーターを中心に、学校コーディネーターの配置など体制の強化に努めた。</p>
今後の方向性	<p>市民一人ひとりが生きがいを持ち、自分らしさを追い求めることができる生涯学習社会の実現に向け、「第6次社会教育中期計画」に基づき、各種施策に取り組んでいく。</p>

項目	14 ふるさと学習
点検内容	<p>ふるさと学習については、郷土資料館の展示や郷土の歴史・文化を学ぶ機会の充実など、本市を形づくる歴史遺産の保存や活用を通して、市民意識の醸成と郷土に対する愛着が深まるよう取り組む。</p> <p>また、アイヌ語の地名などを紹介するため、新たに登別地区において看板等を整備するほか、引き続き公共施設等へアイヌ文様のタペストリーの設置を図るなど、アイヌ文化の振興並びに伝統の普及・啓発に努める。</p> <p>さらに、登別市が輩出した『アイヌ神謡集』の作者である知里幸恵をはじめとするアイヌ文化の伝承者の功績について、広く情報発信に努める。</p>

取組状況

○郷土の歴史や文化に関する各種講座開催の奨励

○郷土の歴史を明らかにする文化財の保存、管理

○アイヌ文化の伝承や普及・啓発～登別アイヌ協会や関係NPO法人等の取組支援

アイヌ文化講座（制作・体験）の講師を登別アイヌ協会に依頼したほか、知里真志保を語る会及びNPO法人知里森舎主催事業の周知等で支援を行った。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大によりアイヌ文化講座（制作・体験）は未実施となった（公財）北海道アイヌ協会主催事業に係る経費の一部を補助した。

アイヌ政策推進交付金を活用して、市内中学校及び中等教育学校6校、公共施設2施設にアイヌ民族の伝統的な刺しゅうや切伏を施したタペストリーを展示したほか、令和2年度に製作した郷土資料館のアイヌ文化展示コーナーの展示ケース内に資料及び説明パネルの陳列を行った。また、アイヌ文化関連施設の誘導看板の設置やアイヌ文化を紹介する看板の改修又は製作、アイヌ文化関連のマップの製作を行った。

◇市指定文化財の指定 3/30 登別市指定文化財第10号として「片倉家主従開拓記念碑」（刈田神社）を指定。

◇縄文出前講座 5～7月 市内小学校7校で実施（6年生302名参加）

◇古文書教室 3/5・20 古文書解読の実践2回を予定したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止。

◇アイヌ文化講座（制作・体験）9～10月 登別アイヌ協会の会員等を講師にアイヌ民族の歴史や文化の講演やアイヌ文様の刺しゅうを施したランチョンマット制作、ウポポイ見学等全6回の講座を予定し受講者の募集も行っていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止。

（講演）10/16 登別アイヌ協会顧問・小坂博宣氏より「ヌブルベツ～登別川の地名由来～」（参加者23名）、12/16 アイヌ語研究者・大須賀るえ子氏より「アイヌ語への熱い思い～金成マツさんの弟子になりたい～」（参加者29名）と題して講演いただき、市民にアイヌ文化を学ぶ機会を提供した。

◇歴史交流事業 令和2年度から引き続き、本市から学芸員を派遣し交流を深める年度であったが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止。

◇郷土資料館特別展 3～4月 「はじめまして！～令和元～3年度新資料～」

◇郷土資料館企画展 4～5月 「五月武者人形展」

5～6月 「さくら写真展」 ※緊急事態宣言の発出による臨時休館で5日間のみ実施

10～11月 「紅葉写真展」、「郷土資料館40年の歴史から未来へ」

2～3月 「おひなさま人形展」

◇体験学習事業

※登別市郷土資料館、文化伝承館、のぼりべつ文化交流館は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、5/16～6/20、8/27～9/30の期間、臨時休館となったため、事業の一部を中止にした。

・郷土資料館事業 5/16 【中止】 わんぱくサムライ体験

・文化伝承館事業 通年 ボランティアSLGによる、べこもちづくりなどの体験

9事業（6事業を中止）を実施 114名参加

・のぼりべつ文化交流館 6～10月の間に6事業（1事業を中止）を実施 168名参加

◇各種講演等（学芸員派遣）

7/9 知里幸恵銀のしずく記念館学習会

1/15 プラタナスフォーラム

<p>評 価</p>	<p>登別市アイヌ施策推進地域計画に基づき、アイヌ政策推進交付金を活用し、市内中学校等へのアイヌ文様タペストリーの設置やアイヌ文化に関する各種看板の整備や市内のアイヌ文化に関連する史跡・施設等を盛り込んだマップの製作など新たな事業を実施し、市民のアイヌ文化への理解が深まるよう取組を進めた。新型コロナウイルス感染症の影響で、郷土資料館やのぼりべつ文化交流館での展示や体験事業が一部中止を余儀なくされたが、対策を講じながら可能な限り学習会を実施し、ふるさと教育の基となる文化財の保存、普及・活用の取組を進めた。</p>
<p>今後の方向性</p>	<p>ふるさと教育については、将来においても、市民が郷土への愛着と関心を深めながら心豊かに暮らしていくことができるよう、郷土資料館において本市のあゆみを形づくる歴史資料の保存・展示に努めていく。</p> <p>また、アイヌ文化の振興については、本年、『アイヌ神謡集』の作者であり、本市を生誕の地とする知里幸恵の没後100年を迎えることを機に、知里幸恵の生涯を描いた一人芝居の鑑賞会を開催するとともに、（仮称）登別市情報発信拠点施設「ヌブル」において、知里家に関連する資料の展示を企画していく。</p> <p>さらに、NPO法人知里森舎が取り組むフォーラム等の各種事業を支援するなど、登別に縁のあるアイヌ文化への関心が高まるよう、努めていく。</p>

<p>項 目</p>	<p>15 家庭教育</p>
<p>点検内容</p>	<p>家庭教育については、引き続き「家庭教育学級」において、子育ての知識や望ましい生活習慣などを学ぶ学習会を開催し、子育てに関する情報提供や保護者同士が自身の体験や知識を積極的に交換できる場を設けるなど、内容の充実に努める。</p>

取組状況

○令和2年度より市が主体となって、保育所、幼稚園、小学校の保護者を対象に1学級を開設し、交流を図りながら、子育てに関する様々なことを学ぶことのできる学習会（講演会・体験講座等）を年に3回程度開催。 参加者49名

第1回	8/6	知るだけで幸せ食卓♡「食品添加物」って？
第2回	8/26	手打ちうどん作り
第3回	10/5	アンガーマネジメントでワクワクの毎日を
第4回	11/13	アンガーマネジメントキッズ講座
第5回	12/21※中止	冬休みの過ごし方
第6回	2/5 ※中止	家族で足育！足を育てる知識と実践

○「放課後子ども教室」～放課後に子どもたちが安全・安心に過ごすことができる活動拠点づくり
 活動日時～平日2日間、4～9月午後5時まで 10～3月午後4時まで
 運営～コーディネーターや教育活動サポーターなど地域の方々による実行委員会が主体。
 鷺別地区放課後子ども教室「ひなわしメート」 計51日間実施 計2,724名
 幌別東小学校区放課後子ども教室「はまなすメート」 計44日間実施 計240名

○「地域学校協働本部事業」 参加者数 計2,413名（大人・児童・生徒とも）

【鷺別中学校区（鷺別小・若草小・鷺別中）】

鷺別小学校	事業内容
10～12月	鬼っ子算数教室 4回
6～11月	畑・花壇整備 9回
4/30	五月人形飾り
若草小学校	事業内容
5/10	授業中のふれあい農園
5～6月	畑・花壇整備 7回
10～1月	鬼っ子算数教室 4回
鷺別中学校	事業内容
4月	登下校見守り 3回

【緑陽中学校区（富岸小・青葉小・緑陽中）】

富岸小学校	事業内容
6/1	授業中のふれあい農園
10～12月	鬼っ子算数教室 3回
7/4	富岸川川遊び（3校合同）
9/7	収穫祭
4月	登下校見守り 3回
青葉小学校	事業内容
7/4	富岸川川遊び（3校合同）
10～12月	鬼っ子算数教室 3回
1/14	漢字検定学習支援
緑陽中学校	事業内容
7/4	富岸川川遊び（3校合同）

【幌別中学校区（幌別小・幌別東小・幌別中）】

幌別小学校	事業内容
10～12月	鬼っ子算数教室 4回
幌別東小学校	事業内容
7～12月	鬼っ子算数教室 6回

【西陵中学校区（幌別西小・西陵中）】

幌別西小学校	事業内容
10～12月	鬼っ子算数教室 4回
12月	夏休み学習サポート 2回
10/2	地域との合同避難訓練
5/15	畑・花壇整備
12/15	マンドリン鑑賞会

【登別中学校区（登別小・登別中）】

登別小学校	事業内容
5月～8月	授業中のふれあい農園 2回
5～12月	鬼っ子算数教室 5回
5/6	鮭の放流のための川岸整備

5/8	鮭の放流
10/9	鮭の採卵
5～9月	畑・花壇整備 8回

評価	<p>家庭教育学級では、さまざまな取組を通して、家庭の教育力の向上を図ることができた。一方で、保護者のライフスタイルが多様化する中、参加者の固定化が生じていることなどから、参加者のニーズ把握に努め、内容を企画することが必要である。</p> <p>放課後子ども教室、地域学校協働本部事業においては、地域ボランティアの協力のおかげもあり、子どもたちに豊かな学びの場を提供することができた。</p>
今後の方向性	<p>家庭教育については、家庭教育学級を開設し、子育てに関する啓発資料の提供や学習機会の充実とともに、保護者同士の交流や親子の時間の確保が図られるよう、努めていく。</p>

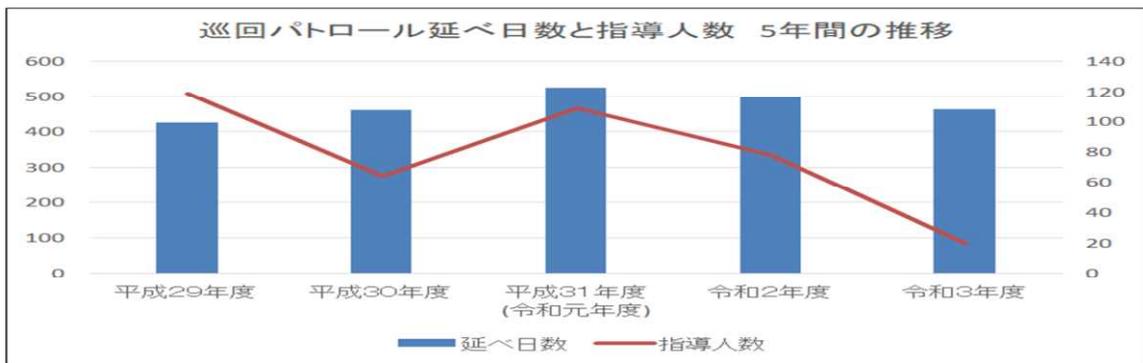
項目	16 青少年の健全育成
点検内容	<p>青少年の健全育成については、子どもの非行防止と通学路等における安全確保のため、学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力のもと、青少年センターを中心に、引き続き登下校時の見守り活動や街頭指導、巡回指導などに努める。</p> <p>また、近年増加傾向にある不審者情報を地域と共有し、多くの目で子どもを見守るため、「こども110番スタディちゃんの家」の設置場所や防犯訓練等の在り方を検討する。</p>

取組状況

○登下校の見守り活動や街頭指導、巡回指導

・市内巡回パトロール（通常・特別）実施状況 ※（ ）内は昨年度実績

	通常巡回		特別巡回 (列車添乗・祭典その他)	合計
	鷺別・緑陽 校区	登別・幌別・西陵・明日 校区		
延べ日数	204日(230日)	210日(238日)	50日(30日)	464日(498日)
延べ巡回回数	313回(502回)	346回(642回)	80回(39回)	739回(1,183回)
延べ人員	419人(682人)	488人(819人)	159人(97人)	1,066人(1,598人)
指導人数	16人(17人)	2人(60人)	2人(1人)	20人(78人)



※指導の内訳（その他にはゲームコーナーを含む）

（単位：件数）

	自転車等			危険な行為			その他			合計		
	R1	R2	R3	R1	R2	R3	R1	R2	R3	R1	R2	R3
13歳未満	27	39	10	46	22	2	4	1	0	77	62	14

13歳	0	0	1	5	1	1	0	0	0	5	1	2
14歳	0	0	0	1	7	4	0	0	0	1	8	4
15歳	0	0	0	7	3	0	0	0	0	7	3	0
16歳	3	4	0	3	0	0	0	0	0	6	4	0
17歳	2	0	0	2	0	0	0	0	0	4	0	0
18歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19歳	0	0	0	9	0	0	0	0	0	9	0	0
合計	32	43	11	73	33	7	4	1	0	109	78	20

指導内容と推移(前年度比)

「自転車等」急な飛び出し2件(-3件) 車道逆走8件(-14件) スマホしながら自転車運転1件(+1件) 他
「危険な行為」危険な道路横断0件(-4件) スケートボード6件(-8件)
キックスケーター1件(-3件) 道路遊び0件(-7件) 他

・万引き状況 (調査を依頼し報告を受けたもの) (単位: 件数)

	小学生	中学生	高校生	小中高以外	合計
30年度	1	6	1	4	12
元年度	3	1	0	10	14
2年度	2	1	2	6	11
3年度	1	0	4	16	21

※市内大型店3店舗、市内コンビニ20店舗、その他25店舗、計48店舗の協力による。

・不審者・変質者出没状況 (単位: 件数)

	温泉地区	登別地区	幌別地区	鷺別地区	その他	合計
30年度	0	1	2	8	0	11
元年度	0	0	9	5	0	14
2年度	0	0	9	8	0	17
3年度	0	0	8	6	0	14

○こども110番の家 地域住民・商店の協力による子どもの駆け込み場所 415件設置

内訳: 鷺中校区91件 緑中校区101件 幌中校区115件 西陵中校区39件
登中校区57件

○情報の共有

- ・登別市青少年指導委員連絡会～学校教員と一般の指導員による交流、状況や指導の重点を確認。
- ・登別市小学校・中学校合同生徒指導担当者連絡会議～小学校・中学校他代表教諭による現状や課題などについての情報交流、協議、問題行動の早期発見や未然防止を図る。
- ・不審者出没状況調書、巡回パトロール活動及び街頭指導等状況調書による情報発信。

評価	巡回パトロールでは、突発的な事案発生に伴う特別巡回の実施など、状況に応じた対応を執ることができた。学校から「児童生徒が登校していない(あるいは、帰宅していない)」という通報を受けて、巡回した案件が数件あった。
今後の方向性	青少年の健全育成については、青少年センターを中心に、学校・家庭・地域・関係機関と連携し、街頭指導や巡回指導などに取り組み、子どもの非行防止と登下校時の安全確保に努めていく。 また、不審者情報を地域と共有し、監視と巡回パトロールを実施するとともに、「こども110番スタディちゃんの家」を活用し、子どもが不審者と遭遇した場合に備える「駆け込み訓練」を実施していく。

項目	17 文化・スポーツの振興
点検内容	<p>文化・スポーツの振興については、登別市文化・スポーツ振興財団や関係団体と連携して、市民が芸術・文化に触れる機会の充実や各種文化活動の支援とともに、スポーツ活動の促進による健康・体力づくりに努める。</p> <p>また、「SOMPOボールゲームフェスタ2021」や「東京2020オリパラで夢を育むスポーツ推進事業」に取り組み、子どもたちに体を動かす喜びの体験やスポーツの魅力を伝える。</p> <p>さらに、休日の学校部活動を段階的に地域へ移行する国の方針が示されたことから、子どもたちにとって望ましいスポーツ環境の整備に向け、地域スポーツの在り方について検討する。</p>

取組状況

○西いぶり定住自立圏文化事業

公演「桂米朝一門 上方落語を楽しむ会」8/1 来場者267名 主管：登別市

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2回公演とした。

※本来、令和2年度実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となったため、令和3年度に繰り越しての実施となった。

○小学校での文化芸術体験～文化芸術による子供育成総合事業（巡回公演事業）～

文化庁実施事業の活用。市内小学校6年生を対象に実施。演目は狂言、公演団体は萬狂言。

ワークショップ 10/28 代表校の鷺別小学校で開催 狂言の歴史や舞の練習

公演 11/30 狂言（附子・柿山伏） 市民会館大ホールで開催 鷺別小児童4名出演

○学校での郷土芸能の伝承

鷺別小学校～鷺別子ども獅子舞

※ 新型コロナウイルス感染症により神社の祭典が中止となったため未実施

幌別東小学校～幌別駒おどり 新型コロナウイルス感染症により未実施

登別中学校～熊舞 10/28 全校・保護者に披露 ※8月駅前公演・地獄まつり公演中止

12/18 熊舞引継ぎ式(全校・保護者に公開)で披露

○市民へ文化活動の発表の場を提供 市民会館サークル展 10/4～10/6

市民会館を中心に活動しているサークルの活動紹介と作品展示 11団体出展

○登別市市制施行50周年記念事業 おかあさんといっしょ宅配便「ガラピコぶ～小劇場」 7/17

地域文化の振興と地域住民の福祉の向上に資することを目的として、日本放送協会室蘭放送局と共催により「おかあさんといっしょ」のキャラクターとうたのおねえさんによるイベントを開催。 104組364名

○SOMPOボールゲームフェスタ2021in登別（中止）

トップアスリートと共に、子どもたちにスポーツの楽しさを伝えるイベント

【午前の部・あそびバ！】

対象 年長～小学校低学年と保護者

内容 親子で運動・あそびの体験

【午後の部・キッズチャレンジ】

対象 小学校高学年

内容 4種目（サッカー・フットサル、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール）をアスリートと共にローテーションで体験

※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため、中止。令和4年度、改めて開催予定。

○東京2020オリパラで夢を育むスポーツ推進事業（中止）

5月 パラ陸上伴走者 中田 崇志 氏（講演会、実技指導）

9月 元車いすテニスプレーヤー 二條 実穂 氏（講演会、実技指導）

※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため、両事業ともに中止。

○地域運動部活動推進事業（休日の段階的な地域移行に関する実践研究）

休日の部活動を学校から地域のスポーツ活動への移行に取り組む拠点校を定めるとともに、休日に指導にあたる部活動指導員及び当該活動の運営を担う事務局員を確保し、拠点校における休日部活動を地域スポーツ活動として実施

拠点校（部活動名） 幌別中学校（女子バレーボール部）

運営団体 登別市バレーボール協会

地域スポーツとしての活動時間 38時間15分（令和3年10月～令和4年1月・14回）

※スポーツ庁からの委託を受けた北海道教育委員会からの再委託事業として実施

○一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団が実施する文化・スポーツ事業への補助

○文化振興事業

（1）主催事業

初心者英会話教室	中止 (年間開催数2回を予定)	コロナの影響を受け中止
ハーブ教室	中止	コロナの影響を受け中止
筆ペン習字教室	中止	コロナの影響を受け中止
ビーズアクセサリ教室	6/29 4名	一般の方を対象に市民会館にて実施
燻製作り体験	2/25 5名	一般の方を対象に市民会館にて実施
スイーツデコ教室	8/7 5名	小学生を対象に市民会館にて実施
楽しい工作教室	7/31 7名	小学生を対象に日本工学院にて実施
お菓子作り体験	中止	コロナの影響を受け中止
美味しいコーヒーの淹れ方教室	中止	コロナの影響を受け中止
常備菜体験	中止	コロナの影響を受け中止
道新ジュニアクラシック「登別市小・中学生のための札幌コンサート」	12/6 372名	幌別東小・幌別小・幌別中・明日中等教育学校の児童及び生徒を対象に市民会館にて札幌コンサートを開催
熱帯ジャズコンサート	11/5 239名	一般の方を対象に市民会館にて実施
春風亭一之輔独演会	中止	コロナの影響を受け中止

（2）共催事業

市民文化祭	8/22～11/21	各地区において実施
文化講演会	11/28 100名	一般の方を対象に市民会館にて講演会を実施
小中学生書初展	2/4・5・6 273名	市民会館にて小・中学生の書き初めの展示

○スポーツ振興事業

（1）主催事業

初心者レディースゴルフ教室	中止	コロナの影響を受け中止
温泉散策ウォーキング	10/9 11名 (年間開催数2回を予定)	登別温泉にて一般の方を対象に実施 うち1回はコロナの影響を受け中止

ジュニアソフトテニス教室	7/29 8/3・4・11・12 2名	岡志別の森運動公園にて小学生以上を対象に実施
ファミリーフィッシング	10/31 6名 (年間開催数2回を予定)	室蘭港にて親子を対象に実施 うち1回はコロナの影響を受け中止
走り方教室	11/20 31名	総合体育館にて小学生を対象に実施
初心者スノーボード教室	2/13・20・27 10名	サンライバスキー場にて小学生以上を対象に実施
キッズHIPHOP教室	1/22・29 6名	市民プールにて幼児を対象に実施
ダンスレッスン派遣事業	10/12・19 84名	令和3年度は登別中に派遣
スポーツテーピング講習会	中止	コロナの影響を受け中止
軽スポーツ指導者派遣事業	派遣なし	令和3年度は派遣要請無し
市民ソフトボール大会(夏)	中止	コロナの影響を受け中止
市民ソフトボール大会(秋)	10/10 60名	岡志別の森運動公園にて一般の方を対象に開催
市民ボウリング大会(シニア夏)	中止	コロナの影響を受け中止
市民ボウリング大会(シニア秋)	3/2 21名	室蘭グラウンドボウルにて一般の方を対象に開催

(2) 共催事業

市民ミニバレー大会	中止	コロナの影響を受け中止
-----------	----	-------------

○健康づくり、スポーツ振興

市民ラジオ体操会	7/25	幌別西小、登別小を会場に実施 参加延べ人数152名
西胆振6市町小学生スポーツ交流会	6/26	西胆振3市3町の小学生を対象としたスポーツ大会(陸上競技)を室蘭市入江運動公園陸上競技場で実施 参加延べ人数 322名 うち、登別市民63名
市民スポーツ・健康フェスティバル	中止	コロナの影響を受け中止
学校体育施設開放事業	通年	11施設(小8校、登中、緑中、幌中(R3.4~))を開放 延べ開放日数1,149日 延べ利用団体1,252団体 延べ利用人数17,184名
オクトーバー・ラン&ウォーク2021	10/1~31	専用の無料アプリで10/1~31までの1ヶ月間、走行・歩行距離を計測しその結果を全国の参加自治体間で競い合うイベントを実施し、多くの方に参加していただいた。
放課後運動教室事業	通年	【実施小学校】市内8小学校 【実施回数】 73回 【参加者累計総数】 3,005人 【実施内容】 バドミントン、跳び箱、マット遊び 等

評価	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、多くの事業が中止を余儀なくされたが、各種事業を通じて、市民一人ひとりの豊かな感性や創造性を育み、心豊かな生活を送ることができるとともに、生きがいを感じることができるような文化活動を進めることができた。
----	---

	また、スポーツについても、市民ラジオ体操会を開催し市民の体力向上や健康保持、小学生の規則正しい生活習慣の定着等を図ったほか、学校体育施設開放事業・放課後運動教室事業により、地域の方々や子供たちにスポーツ活動の機会を提供することで健康増進や運動能力の向上を図ることができた。
今後の方向性	文化・スポーツの振興については、登別市文化・スポーツ振興財団や各関係団体と連携し、市民の文化・スポーツ活動への参加促進と文化講座、各種スポーツ教室の充実を図っていく。 また、少子化やスポーツ人口の減少が進む中、国の「地域運動部活動推進事業」を活用し、休日部活動の段階的な地域移行に関する実践研究を推進するとともに、本市の実情に沿った望ましいスポーツ環境の構築を目指していく。 さらに、トップアスリートと触れ合いながら、さまざまな種目のスポーツを体験する「SOMPO(ソンプ)ボールゲームフェスタ」を開催する。

項目	18 学校給食
点検内容	学校給食については、引き続き衛生管理の徹底を図り、安全で安心な給食を提供するとともに、郷土を実感できる食材を取り入れ、ふるさとへの愛着心の醸成や地域の産業への理解が深まるよう努める。

取組状況

○地元の食材を積極的に取り入れた献立づくり（使用回数 118 回 使用率 57.28%）

毎日提供している「のぼりべつ牛乳」や富浦産だし昆布、鮭のダイスカット、のぼりべつ豚など地場産品を積極的に活用。登別漁港で水揚げされたマスを加工し、「登別産マスからあげ」「登別産マスフライ」「登別産マスちゃんちゃんフライ」「登別産マスの塩焼き」を和食の日に合わせて提供した。

また、「えんまラーメン」や「スイートポテト」など市内の業者と連携し、地元を身近に感じられる献立を実施。地場産品の使用内容を献立表やランチメールなどに記載し、各学校や保護者に配布したほか、野菜などについても、入札規格等において近隣市町村産品または道産品を指定し、広域的な地産地消の取組も実施。

○発達期にある児童・生徒に豊かでおいしい給食の提供

文部科学省の学校給食摂取基準等に基づき、学校栄養教諭が献立を作成するなど、児童・生徒の栄養価やエネルギーなどバランスの摂れた給食を提供。児童・生徒の体力不足を補い丈夫な体をつくるため、学校教育Gと連携して各小学校に栄養教諭を派遣し、食育授業を年12回実施。

○「和食」を伝えるための給食の実施

食育の日である毎月19日付近を「和食の日」とし、主食・主菜・副菜・汁物をそろえた献立を提供。

月	和食の献立名	月	和食の献立名
4月	ごはん、豚汁、白身魚フライ、ひじき大豆煮	10月	ごはん、あすか鍋、たれ付き肉団子、切干し大根煮
5月	—	11月	ごはん、豆腐となめこの味噌汁、さばのしょうが煮、ひじき大豆煮
6月	ごはん、せんべい汁、ぶり西京カツ、きんぴらごぼう	12月	ごはん、のっぺい汁、切干し大根煮、ぶり西京みそカツ
7月	ごはん、豚汁、登別産マスからあげ、切干し大根煮	1月	ごはん、雑煮、さわらの照り焼き、昆布豆

8月	ごはん、かぼちゃだんご汁、 登別産マスフライ、昆布豆	2月	ごはん、ひつつみ、きんぴらごぼう、 いわしのゆず味噌煮
9月	ごはん、豆腐となめこの味噌汁、 登別産マスちゃんちゃんフライ、ひじき大豆煮	3月	ごはん、豚汁、ほっけザンギ、 切干し大根煮

○食におけるアレルギー対応

①情報の共有

- ・学校や関係機関（医療関係や消防機関等）と、給食センターのアレルギー対応や各学校におけるアレルギーを有する児童・生徒の状況、緊急時の対応などの情報を共有し連携を図った。
- ・学校や保護者から連絡等があった場合は、一層きめ細やかな対応等に努めた。

②実際の対応～学校から教育委員会を經由し給食センターへ提出される「取組プラン」により対応。

牛乳アレルギー：小学校 11 名→緑茶に変更

中学校（北海道登別明日中等教育学校含む）10 名→緑茶に変更

③給食センターからの情報発信

予定献立表（小中学校及び児童・生徒へ配布、給食センターウェブサイトに掲載）

主食（パン・麺）や使用調味料の原材料及びアレルギー一覧表（給食センターウェブサイトに掲載）

ランチメール（小中学校へ配布、給食センターウェブサイトに掲載）

評価	<p>献立に地元食材及び近隣市町村産品や道産品を活用するとともに、その周知を図ることにより、児童・生徒が地域の食に対する関心を高め、郷土愛を育むことに貢献することができた。また、各小学校に栄養教諭を派遣して実施する食育授業が定着するとともに、栄養学的視点からの授業に偏ることなく、児童・生徒の健康維持・増進及び体位の向上に寄与することができた。</p> <p>給食センターについては、供用開始から 50 年以上が経過し老朽化が著しいほか、衛生管理、作業効率、施設の耐震化など課題が山積している。室蘭市との共同設置とするのか、本市単独での設置とするのか、早い時期での新センター建設に向け検討をすすめていく。</p>
今後の方向性	<p>学校給食については、衛生管理の徹底を図り、安全で安心な給食を提供するとともに、郷土を実感できる食材を取り入れ、ふるさとへの愛着が深まる献立の提供に努めていく。</p>

項目	19 図書館
点検内容	<p>図書館については、引き続きアイヌ文献の収集に取り組むとともに、市民活動サポーターとの協働による郷土資料のデジタル化を進める。</p> <p>また、電子図書館については「図書館通信」による電子資料の紹介や操作方法の講習会を実施し、利用の促進に努める。</p>

取組状況

○令和 3 年度 図書館での貸出冊数 140,289 冊、移動図書館車での貸出冊数 12,303 冊、購入冊数 5,188 冊

○図書ボランティアとの連携・協働

「おはなしぼけっと」のおはなし会（7 回）、「図書館市民活動サポーター」による郷土資料のデジタル化。

○市民や関連機関との協働事業

特集展示「世界食糧デー」（11/10～25）、講座「日本古来の製鉄法 たたらを学ぶ」（2/19）

○市役所各部署との連携事業

「自殺予防展」(健康推進グループ、10/1～10/14)、「世界アルツハイマー月間展」(健康長寿グループ、10/1～10/20)

○ブックスタート・ライブラリースタート事業や図書館講座などを通して、利用者の増加を図る。

- ・ブックスタート(4か月児を対象に、絵本2冊とアドバイス集などを配布。実施数221人)
- ・ライブラリースタート(3歳児と保護者を対象に図書館で本1冊を選び送付。実施73人)

○図書館講座「やってみましょう!電子図書館」(3回)

○主なイベント等の事業(◇は「ふるさと学習」と関連)

- 5/5～9 「じどうしつで楽しもう!開催こども★フェスタウィーク」
- 6/11-24 「登別市立小学校・中学校教科書展」
- 6/25 「学校図書担当者連絡会議」
- 7/31 「夏休み工作」
- 8/3-25 特集展示「海にすむ生きものたち」
- 10/1-14 「世界アルツハイマー月間」展示 共催:健康長寿グループ
- 11/3 ◇文化の日講演会「映画の始まりとは」講師:登別映像機材博物館長 山本 敏氏
- 12/18 「クリスマス工作」
- 12/25 「ブラックパネルシアターでクリスマスのおはなし会」(おはなしぼけっと主催)
- 1/15-2/20 「雑誌の付録抽選会」
- 2/19 ◇郷土文化講座「日本古来の製鉄法 たたらを学ぶ」(室蘭登別たたら会)
- 2/26-4/15 「本と雑誌のリサイクル市」
- 毎月 「こども映画会」「名画鑑賞会」「えほんのへやのおはなし会」

○新規事業

- ・アーニス分館『デジタル分館のおはなし会』(12月より毎月開催)
- ・3階を参考資料室として整備。(旧温泉配本所の書架、並びに寄附を活用し書架等を購入し、3階を参考資料室として整備する。これにより狭隘の解消と環境改善を図る)

<p>評価</p>	<p>新型コロナウイルスにより令和2年度よりもさらに多くの臨時休館を余儀なくされ、例年実施している事業の多くが中止となった。こうした状況下でも電子図書館『デジタル分館』により非来館型のサービスを提供することができた。</p> <p>また、「デジタル分館のおはなし会」や「やってみましょう!電子図書館」を定期的に開催し、利用の促進と周知に努めるとともに、ボランティアとの協働では、引き続き郷土資料をデジタル化してホームページ上で公開することができた。</p> <p>さらに、アイヌ文献の収集では、内閣府交付金「アイヌ文献収集事業」の最終年度であり、「アイヌ神謡集」を電子書籍で収集したほか、知里真志保、幸恵、金成マツ、山田秀三など本市ゆかりの人物に係わる文献を古書で多数収集することができた。</p>
<p>今後の方向性</p>	<p>図書館については、市民活動サポーターとの協働により、郷土資料のデジタル化を進めるとともに、電子図書館を広く市民へ周知し利用の促進に努めるなど、市民一人ひとりが自己実現に向けて、豊かな時間を過ごすことができる図書館を目指していく。</p>

3 重点施策の評価結果

	項目	点検内容	R2 評価	R3 評価
1	地域とともにある学校づくり	本市においては、コミュニティ・スクールと地域学校協働本部を一体的に推進し、学校と地域が連携・協働して、将来を担う子どもたちの育成に努めてきた。 今後においても、更なるコーディネート機能の充実を図るとともに、学校を核とした多様な地域学校協働活動が展開されるよう努める。	B	B
2	小中一貫教育 幼保小連携 キャリア教育	小中一貫教育については、「登別市小中一貫教育基本方針」に基づき、9年間の円滑な接続を図ることで子どもたち一人一人の良さを大切にした指導を継続し、中1ギャップ問題の解消や未然防止に努める。 幼保小連携については、昨年度まで北海道教育委員会の研究指定を受けて取り組んできたスタートカリキュラムの効果的な活用や教育課程の見直しを進めるなど、引き続き円滑な接続が図られるよう支援する。 また、キャリア教育については、登別青嶺高等学校や登別明日中等教育学校、日本工学院北海道専門学校との連携・協働により、基礎的・汎用的能力を育む取組を推進するとともに、地域企業や事業所の協力を得た職場体験などを通して、地域に愛着を持ち、地域に貢献する人材の育成に努める。	B	B
3	確かな学力の向上 学校図書館	確かな学力の向上については、課題の見られる小学校算数科に焦点をあて、教育指導専門員が地域の方々の協力を得ながら、放課後の学習機会として「鬼っ子算数教室」を開催するとともに、家庭学習の充実が図られるよう、ICTを活用した教材を提供するなど、学習内容の定着と学習習慣の確立に努める。 また、学校図書館については、新たにモデル事業として中学校にも学校司書を配置し読書活動の推進や授業における支援を通じた情報活用能力の育成などに努める。	B	A
4	英語教育	英語教育については、引き続き小学校4年生全員の英検ジュニア受験や中学校生徒に対する英検3級検定料の半額補助を実施し、児童生徒の英語学習に対する関心・意欲の向上や実用的な英語力の強化に努める。 また、外国語指導助手を活用し、異文化への理解とコミュニケーション能力の育成を図るため、小学校の早い段階から英語に触れる環境づくりを進める。	A	A
5	教職員の指導力の向上 働き方改革	教職員の指導力の向上については、引き続き登別市教育実践研究奨励校や登別市教育研究会の活動を支援し、主体的・対話的で深い学びを目指す新学習指導要領が着実に実施されるよう促していく。また、「学校力向上に関する総合実践事業」を活用し、小学校高学年の教科担任制の研究や人材育成など、包括的な学校改善が図られるよう支援する。 さらに、教職員が子どもたちと向き合う時間を確保するため、引き続き勤務時間の適切な把握や部活動指導員の配置を進めるとともに、給食費の徴収業務の軽減や校務支援システムの導入など、学校における働き方改革を推進する。	B	B
6	ICTの活用	ICTの活用については、「1人1台端末」を活用した授業を推進し、児童生徒の特性や学習進度等に応じて、きめ細かな支援ができるよう、登別市情報教育推進協議会と連携し、研究と実践を重ねる。 また、授業改善と学びの充実の観点から、小学校算数科と中学校英語科において指導者用デジタル教科書を導入するとともに、国の「学習者用デジタル教科書実証事業」を活用し、その教育効果を検証する。	B	A

7	豊かな心の育成	<p>豊かな心の育成については、自然体験や社会体験、ボランティア活動など、各学校の実践を継続するとともに、「考え、議論する道徳」の授業を中心に、いのちを大切に作る心や思いやりの心、いじめを許さない心を育む道徳教育の取組を支援する。</p> <p>また、望ましい生活習慣の確立に向け、市内小学校6年生の約4割以上、中学校3年生の約7割以上がスマートフォンを所持している現状を踏まえ、登別市校長会・登別市PTA連合会とともに定めた「ケータイ・スマホ3つのルール」の周知徹底を図るとともに、児童生徒がメディアとの接し方を主体的に考える取組を促す。</p>	A	A
8	いじめ・不登校対策	<p>いじめ・不登校対策については、「登別市いじめ防止基本方針」に基づき、学校・家庭・地域・関係機関と連携し、いじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めてまいります。とりわけ、昨年度開設したメール相談について、より一層活用されるよう、相談方法の周知・徹底に努める。</p> <p>また、教職員研修資料「SOSの出し方に関する教育」を活用し、子どもたちが不安や悩みを抱えたとき、誰にどのように助けを求めればよいか、具体的で実践的な方法を学ぶことができるよう、学校の取組を支援する。</p>	B	A
9	安全対策	<p>安全対策については、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、文部科学省が示す「学校の新しい生活様式」を踏まえ、学習や活動の内容を工夫しながら、可能な限り、授業や部活動、各種行事等の教育活動が継続されるよう支援していく。</p>	A	A
10	体力の向上	<p>体力の向上については、コロナ禍のため少年団活動や部活動が制限されているので、スポーツ指導員の派遣や体育科授業の工夫・改善を通して、児童生徒の健康・体力づくりの取組を促す。</p>	B	A
11	学校の適正配置	<p>学校の適正配置については、「登別市学校適正配置基本方針」で示した計画期間の前期が終了したので、適正規模が課題となっている学校区においては、各地区の学校運営協議会や意見交換会で挙げられた多様な意見を踏まえ、「地区別検討委員会」を設置し、学校の統廃合に向けた取組を推進する。</p>	B	A
12	特別支援教育	<p>特別支援教育については、登別市教育支援委員会などによる教育相談の充実や関係機関との連携により、特別な支援や合理的な配慮を必要とする児童生徒が幼児期から一貫した支援を受けられるよう、体制の整備に努めていく。</p>	A	A
13	社会教育	<p>市民一人一人が主体的に学び、人と人とのつながりを深め、心豊かに暮らすことができる環境づくりが重要である。そのため、今年度からスタートする「第6次社会教育中期計画」に基づき、多様な主体の協働とICTの活用を図りながら、各種事業や施策に取り組む。</p>	B	A
14	ふるさと学習	<p>ふるさと学習については、郷土資料館の展示や郷土の歴史・文化を学ぶ機会の充実など、本市を形づくる歴史遺産の保存や活用を通して、市民意識の醸成と郷土に対する愛着が深まるよう取り組む。</p> <p>また、アイヌ語の地名などを紹介するため、新たに登別地区において看板等を整備するほか、引き続き公共施設等へアイヌ文様のタペストリーの設置を図るなど、アイヌ文化の振興並びに伝統の普及・啓発に努める。</p> <p>さらに、登別市が輩出した『アイヌ神謡集』の作者である知里幸恵をはじめとするアイヌ文化の伝承者の功績について、広く情報発信に努める。</p>	B	A
15	家庭教育	<p>家庭教育については、引き続き「家庭教育学級」において、子育ての知識や望ましい生活習慣などを学ぶ学習会を開催し、子育てに関する情報提供や保護者同士が自身の体験や知識を積極的に交換できる場を設けるなど、内容の充実に努める。</p>	B	A

16	青少年の健全育成	<p>青少年の健全育成については、子どもの非行防止と通学路等における安全確保のため、学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力のもと、青少年センターを中心に、引き続き登下校時の見守り活動や街頭指導、巡回指導などに努める。</p> <p>また、近年増加傾向にある不審者情報を地域と共有し、多くの目で子どもを見守るため、「子ども110番スタディちゃんの家」の設置場所や防犯訓練等の在り方を検討する。</p>	A	A
17	文化・スポーツの振興	<p>文化・スポーツの振興については、登別市文化・スポーツ振興財団や関係団体と連携して、市民が芸術・文化に触れる機会の充実や各種文化活動の支援とともに、スポーツ活動の促進による健康・体力づくりに努める。</p> <p>また、「SOMPOボールゲームフェスタ2021」や「東京2020オリパラで夢を育むスポーツ推進事業」に取り組み、子どもたちに体を動かす喜びの体験やスポーツの魅力を伝える。</p> <p>さらに、休日の学校部活動を段階的に地域へ移行する国の方針が示されましたので、子どもたちにとって望ましいスポーツ環境の整備に向け、地域スポーツの在り方について検討する。</p>	B	B
18	学校給食	<p>学校給食については、引き続き衛生管理の徹底を図り、安全で安心な給食を提供するとともに、郷土を実感できる食材を取り入れ、ふるさとへの愛着心の醸成や地域の産業への理解が深まるよう努める。</p>	A	A
19	図書館	<p>図書館については、引き続きアイヌ文献の収集に取り組むとともに、市民活動サポーターとの協働による郷土資料のデジタル化を進める。</p> <p>また、電子図書館については「図書館通信」による電子資料の紹介や操作方法の講習会を実施し、利用の促進に努める。</p>	A	A

IV 点検・評価に関する学識経験者の意見等

- 地域とともにある学校づくり
コーディネーターが一同に集まる研修会を開催することによって、それぞれの地区で効果的な事例を交流することができ、それぞれの地区にあった取組の参考にすることができる。学校と地域の結びつきが密接になると思われるので、引き続き、研修会等の充実をお願いしたい。
- 小中一貫教育 幼保小連携 キャリア教育
教職員がキャリア教育の意義をよく理解し、職業体験などの取組の前に、ある程度の下地を作り、取組の終了後にフォローアップしていくような活動がないと、結局、効果が薄くなってしまうと思う。今後も引き続き、具体的な取組を進める中で、適切な評価をしていってほしい。
- 確かな学力の向上 学校図書館
一人一台端末の活用は、教職員・児童生徒ともに、使いこなすために日々、努力していることと思う。日常的に持ち帰ることができるような体制を整備したり、Wi-Fi 環境のない家庭ヘルターを貸し出したりするなど、学びを保障するツールとして、効果的に活用してほしい。
読字障害も含め、読解力の低い児童生徒が多くなっているように感じる。小・中・高で丁寧な引継や綿密な連携を行うことで、少しでも早めに対応できるようにしてほしい。
読書活動が活発であること、小さい頃から読むことに慣れていることは大変素晴らしい。小学校に学校司書を導入したことは、児童生徒の読書活動、国語力の向上にプラスに働いていることは間違いない。中学校の学校司書導入の効果にも期待したい。
- 教職員の指導力の向上
学校の働き方改革を進めていると思うが、4月は業務過多となり、超過勤務時間が減少しない傾向が続いている。見通しを持ち、年間の業務を平準化するなど、対策をもう少し考えていく必要があると思う。
- ICTの活用
ICTを活用することにより、児童生徒が自ら学ぶ力をつけてことができる。また、アクティブ・ラーニングや反転学習はICTとの親和性が高い。ICTの活用について、教職員が指導力向上のために学ぶ機会を多く設定してほしい。
- いじめ・不登校対策
いじめや不登校はなくならないと思う。家庭環境の影響もあるし、地域の課題もあるかもしれないが、教職員も子どもたちも、児童生徒の目や表情、行動などから、心のサインを見逃さないよう、感度を高めてほしい。相談ができる、声をあげることができる子どもは、ごくわずか。困っている子どもは必ずいる。心の教育を含めて、できる限りのいじめ・不登校対策を進めていただきたい。

○ 安全対策

情報モラル教育で活用できるような、情報セキュリティの体験的な教育教材を卒業研究のテーマにしている学生がいる。実用レベルの教材になれば、試用していただき、意見をいただきたいと思う。

○ 体力の向上

全国体力調査において、市内小学生は全国平均以上を維持しているため、指標から判断してA評定で良いと思うが、全体的に年々数値が落ちてきているということを見逃さないようにしてほしい。

○ 特別支援教育

市民会館で、秋に特別支援学級所属の児童生徒作品展を開催している。実際に作品を提出している児童生徒が市民会館に来て、自分の作品だけでなく、他校の児童生徒の作品を見る機会があれば、意欲も高まり、刺激になるのではないかと思う。

○ 文化・スポーツの振興

まだ、感染状況が収まらない中ではあるが、魅力ある新事業の展開を考えていかなければならない。参加者が集まることができないから中止と考えることは簡単。しかし、With コロナから after コロナの時代、市民にとって魅力ある事業を構築してほしい。

スポーツ環境の整備では、指標が達成されていけば評価は高くなるが、本市の文化・スポーツの在り方について、もっと議論を進めていく必要がある。それらを考えると、総合的には評価はAではなくBで良いのではないかという思いがある。

○ 図書館

ホームページから電子図書館を閲覧したところ、作成するには相当な苦労があったと思うが、たくさんの知識を得ることができる素晴らしい取組であると感じた。図書館に行かなくても、登別以外のまちからも閲覧することができるのだから、もっとPRして、電子図書館を活用していただきたい。

V 評価のまとめ

令和3年度の登別市教育委員会の重点施策として、点検・評価で取り上げた19項目の評定結果は、

A：達成しているもの・・・・・・・・・・・・・・・・	15項目
B：おおむね達成しているもの・・・・・・・・	4項目
C：おおむね達成しているものの一部課題があるもの・・・	0項目
D：達成に向け困難な課題があるもの・・・・・・・・	0項目

であり、教育行政執行方針に沿っておおむね適切な教育行政の執行がなされたと考えております。今後も、この点検・評価の効果を高めるために、各種基本計画の内容を再確認するとともに、目標に向かってより多くの具体的な改善策が提示されるようにしなければならないと考えております。また、PDCA（計画・実行・確認・改善）のマネジメントサイクルを生かしたシステムづくりに心がけ、登別市の教育行政の推進に役立ててまいります。

VI 参考資料

1 令和3年度 教育行政執行方針

令和3年第1回登別市議会定例会にあたり、教育委員会所管の行政執行に関する基本方針を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、私たちにとって、生活様式や経済活動、子どもたちの教育環境などを改めて見つめ直す契機となりました。今もなお厳しい状況が続いていますが、今後、より多様で複雑化する課題と向き合いながら、全ての人が生涯にわたって主体的に学び続けることのできる環境づくりが一層重要となります。

こうした中で、教育においては、児童生徒1人1台のパソコン端末とネットワーク環境の整備を進めるGIGAスクール構想を推進し、これらを有効に活用しながら、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現することが求められております。

教育委員会としましては、これからの予測困難な時代を生きる子どもたちが、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成するとともに、市民誰もが主体的に学び続け、その成果を生かすことのできる、活力ある生涯学習社会の実現に努めてまいります。

以下、令和3年度の重点項目について申し上げます。

はじめに地域とともにある学校づくりについてであります。

本市においては、コミュニティ・スクールと地域学校協働本部を一体的に推進し、学校と地域が連携・協働して、将来を担う子どもたちの育成に努めてまいりました。

今後においても、更なるコーディネート機能の充実を図るとともに、学校を核とした多様な地域学校協働活動が展開されるよう努めてまいります。

次に学校教育についてであります。

小中一貫教育については、「登別市小中一貫教育基本方針」に基づき、9年間の円滑な接続を図ることで子どもたち一人一人の良さを大切にした指導を継続し、中1ギャップ問題の解消や未然防止に努めてまいります。

幼保小連携については、昨年度まで北海道教育委員会の研究指定を受けて取り組んできたスタートカリキュラムの効果的な活用や教育課程の見直しを進めるなど、引き続き円滑な接続が図られるよう支援してまいります。

また、キャリア教育については、登別青嶺高等学校や登別明日中等教育学校、日本工学院北海道専門学校との連携・協働により、基礎的・汎用的能力を育む取組を推進するとともに、地域企業や事業所の協力を得た職場体験などを通して、地域に愛着を持ち、地域に貢献する人材の育成に努めてまいります。

確かな学力の向上については、課題の見られる小学校算数科に焦点をあて、教育指導専門員が地域の方々の協力を得ながら、放課後の学習機会として「鬼っ子算数教室」を開催するとともに、家庭学習の充実が図られるよう、ICTを活用した教材を提供するなど、学習内容の定着と学習習慣の確立に努めてまいります。

また、学校図書館については、新たにモデル事業として中学校にも学校司書を配置し、読書活動の推進や授業における支援を通じた情報活用能力の育成などに努めてまいります。

英語教育については、引き続き小学校4年生全員の英検ジュニア受験や中学校生徒に対する英検3級検定料の半額補助を実施し、児童生徒の英語学習に対する関心・意欲の向上や実用的な英語力の強化に努めてまいります。

また、外国語指導助手を活用し、異文化への理解とコミュニケーション能力の育成を図るため、小学校の早い段階から英語に触れる環境づくりを進めてまいります。

教職員の指導力の向上については、引き続き登別市教育実践研究奨励校や登別市教育研究会の活動を支援し、主体的・対話的で深い学びを目指す新学習指導要領が着実に実施されるよう促してまいります。また、「学校力向上に関する総合実践事業」を活用し、小学校高学年の教科担任制の研究や人材育成など、包括的な学校改善が図られるよう支援してまいります。

さらに、教職員が子どもたちと向き合う時間を確保するため、引き続き勤務時間の適切な把握や部活動指導員の配置を進めるとともに、給食費の徴収業務の軽減や校務支援システムの導入など、学校における働き方改革を推進してまいります。

ICTの活用については、「1人1台端末」を活用した授業を推進し、児童生徒の特性や学習進度等に応じて、きめ細かな支援ができるよう、登別市情報教育推進協議会と連携し、研究と実践を重ねてまいります。

また、授業改善と学びの充実の観点から、小学校算数科と中学校英語科において指導者用デジタル教科書を導入するとともに、国の「学習者用デジタル教科書実証事業」を活用し、その教育効果を検証してまいります。

豊かな心の育成については、自然体験や社会体験、ボランティア活動など、各学校の実践を継続するとともに、「考え、議論する道徳」の授業を中心に、いのちを大切にすることや思いやりの心、いじめを許さない心を育む道徳教育の取組を支援してまいります。

また、望ましい生活習慣の確立に向け、市内小学校6年生の約4割以上、中学校3年生の約7割以上がスマートフォンを所持している現状を踏まえ、登別市校長会・登別市PTA联合会とともに定めた「ケータイ・スマホ3つのルール」の周知徹底を図るとともに、児童生徒がメディアとの接し方を主体的に考える取組を促してまいります。

いじめ・不登校対策については、「登別市いじめ防止基本方針」に基づき、学校・家庭・地域・関係機関と連携し、いじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めてまいります。とりわけ、昨年度開設したメール相談について、より一層活用されるよう、相談方法の周知・徹底に努めてまいります。

また、教職員研修資料「SOSの出し方に関する教育」を活用し、子どもたちが不安や悩みを抱えたとき、誰にどのように助けを求めればよいか、具体的で実践的な方法を学ぶことができるよう、学校の取組を支援してまいります。

安全対策については、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、文部科学省が示す「学校の新しい生活様式」を踏まえ、学習や活動の内容を工夫しながら、可能な限り、授業や部活動、各種行事等の教育活動が継続されるよう支援してまいります。

体力の向上については、コロナ禍のため少年団活動や部活動が制限されておりますので、スポーツ指導員の派遣や体育科授業の工夫・改善を通して、児童生徒の健康・体力づくりの取組を促してまいります。

学校の適正配置については、「登別市学校適正配置基本方針」で示した計画期間の前期が終了しましたので、適正規模が課題となっている学校区においては、各地区の学校運営協議会や意見交換会で挙げられた多様な意見を踏まえ、「地区別検討委員会」を設置し、学校の統廃合に向けた取組を推進してまいります。

特別支援教育については、引き続き各学校の特別支援教育コーディネーターを中心に、義務教育9年間の連続性に配慮した支援に努めるとともに、のぞみ園や幼稚園・保育所、関係機関等と連携して、幼少期からのきめ細かい支援や就学相談の充実に努めてまいります。

次に、社会教育についてであります。市民一人一人が主体的に学び、人と人とのつながりを深め、心豊かに暮らすことができる環境づくりが重要であります。そのため、今年度からスタートする「第六次社会教育中期計画」に基づき、多様な主体の協働とICTの活用を図りながら、各種事業や施策に取り組んでまいります。

ふるさと学習については、郷土資料館の展示や郷土の歴史・文化を学ぶ機会の充実など、本市を形づくる歴史遺産の保存や活用を通して、市民意識の醸成と郷土に対する愛着が深まるよう取り組んでまいります。

また、アイヌ語の地名などを紹介するため、新たに登別地区において看板等を整備するほか、引き続き公共施設等へアイヌ文様のタペストリーの設置を図るなど、アイヌ文化の振興並びに伝統の普及・啓発に努めてまいります。

さらに、登別市が輩出した『アイヌ神謡集』の作者である知里幸恵をはじめとするアイヌ文化の伝承者の功績について、広く情報発信に努めてまいります。

家庭教育については、引き続き「家庭教育学級」において、子育ての知識や望ましい生活習慣などを学ぶ学習会を開催し、子育てに関する情報提供や保護者同士が自身の体験や知識を積極的に交換できる場を設けるなど、内容の充実に努めてまいります。

青少年の健全育成については、子どもの非行防止と通学路等における安全確保のため、学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力のもと、青少年センターを中心に、引き続き登下校時の見守り活動や街頭指導、巡回指導などに努めてまいります。

また、近年増加傾向にある不審者情報を地域と共有し、多くの目で子どもを見守るため、「子ども110番スタディちゃんの家」の設置場所や防犯訓練等の在り方を検討してまいります。

文化・スポーツの振興については、登別市文化・スポーツ振興財団や関係団体と連携して、市民が芸術・文化に触れる機会の充実や各種文化活動の支援とともに、スポーツ活動の促進による健康・体力づくりに努めてまいります。

また、「SOMP Oボールゲームフェスタ2021」や「東京2020オリパラで夢を育むスポーツ推進事業」に取り組み、子どもたちに体を動かす喜びの体験やスポーツの魅力を伝えてまいります。

さらに、休日の学校部活動を段階的に地域へ移行する国の方針が示されましたので、子どもたちにとって望ましいスポーツ環境の整備に向け、地域スポーツの在り方について検討してまいります。

学校給食については、引き続き衛生管理の徹底を図り、安全で安心な給食を提供するとともに、郷土を実感できる食材を取り入れ、ふるさとへの愛着心の醸成や地域の産業への理解が深まるよう努めてまいります。

図書館については、引き続きアイヌ文献の収集に取り組むとともに、市民活動サポーターとの協働による郷土資料のデジタル化を進めてまいります。

また、電子図書館については「図書館通信」による電子資料の紹介や操作方法の講習会を実施し、利用の促進に努めてまいります。

以上、令和3年度の重点項目について申し上げます。

教育委員会としましては、「登別市教育振興基本計画」で掲げる豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を目指し、学校、家庭、地域の新しい絆づくりを支援するとともに、総合教育会議を通して市長との連携をより深めながら、誰一人取り残さない活力ある豊かな社会の実現に向け、教育行政を推進してまいります。

市民の皆さん並びに議会議員の皆さんのご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

教育に関する具体的な計画とその点検・評価の流れ

